令和8年度 北前船日本遺産オンラインセミナー

第1回 北前船と「灯台」編

第1部　基礎講座

北前船と
灯台・航路標識

高野 宏康

北前船日本遺産推進協議会遺産価値創造プロデューサー

小樽商科大学客員研究員



日和山灯台（北海道小樽市）

自己紹介　高野 宏康

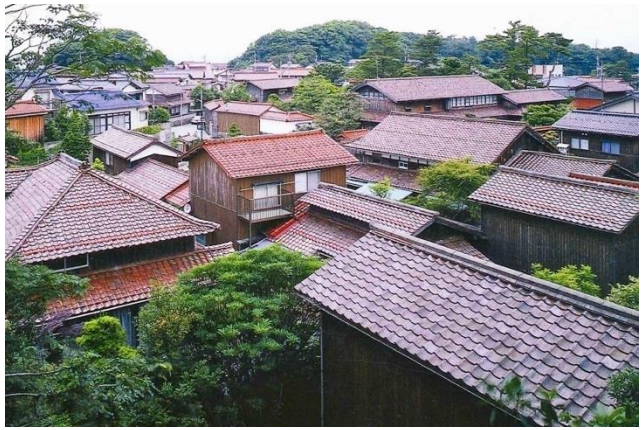
・1974年、石川県加賀市橋立町生まれ
　「北前船の里」。曽祖父まで北前船の船乗り

・博士（歴史民俗資料学）
　専門：北前船学、近現代史、地域資源論

・国立歴史民俗博物館機関研究員などを経て、
　2013年、小樽商科大学に着任。現在、客員研究員

・**北前船日本遺産推進協議会遺産価値創造プロデューサー**

・北前船研究活用ネットワーク代表、
　小樽地域遺産連合会顧問 ほか



橋立の町並み（石川県加賀市）



旧小樽倉庫（北海道小樽市）

本日の内容

1 北前船と灯台・航路標識

2 航路標識の担い手と役割の変遷

3 歴史的ストーリーの活用 ―船内アナウンスの事例―

まとめ

1

北前船と灯台・航路標識

北前船と航路標識

・江戸時代中期から主に明治時代にかけて、
関西方面と北海道を、**日本海航路**を中心に
結んでいた商船。**買積経営**が特徴

・基本的に帆船で沿岸を航海
→ **航路標識は不可欠**

・江戸時代は常夜灯・日和山などが大きな役割。
明治以降は灯台が主にその役割を担う



みちのく丸

北前船に着目すると、近代灯台の登場以前と以後の
航路標識の特徴と変遷が見えてくる

北前船の航海と海難

・海難に遭わなかった北前船主家はほとんどないといってよいほど、**頻繁に発生**

・北前船経営に多用された**弁財船**は、**水密甲板がない**ため、海難事故が多い

・買積経営の北前船は、荷の損害も船の損害もすべて同じ船主にかかる

→ **海難は北前船経営の危機に直結**

時期

秋に集中（8〜9月が最多）
台風シーズン

船

上り船（北海道→大阪方面）
積荷を喫水線ぎりぎりまで
積み込むため

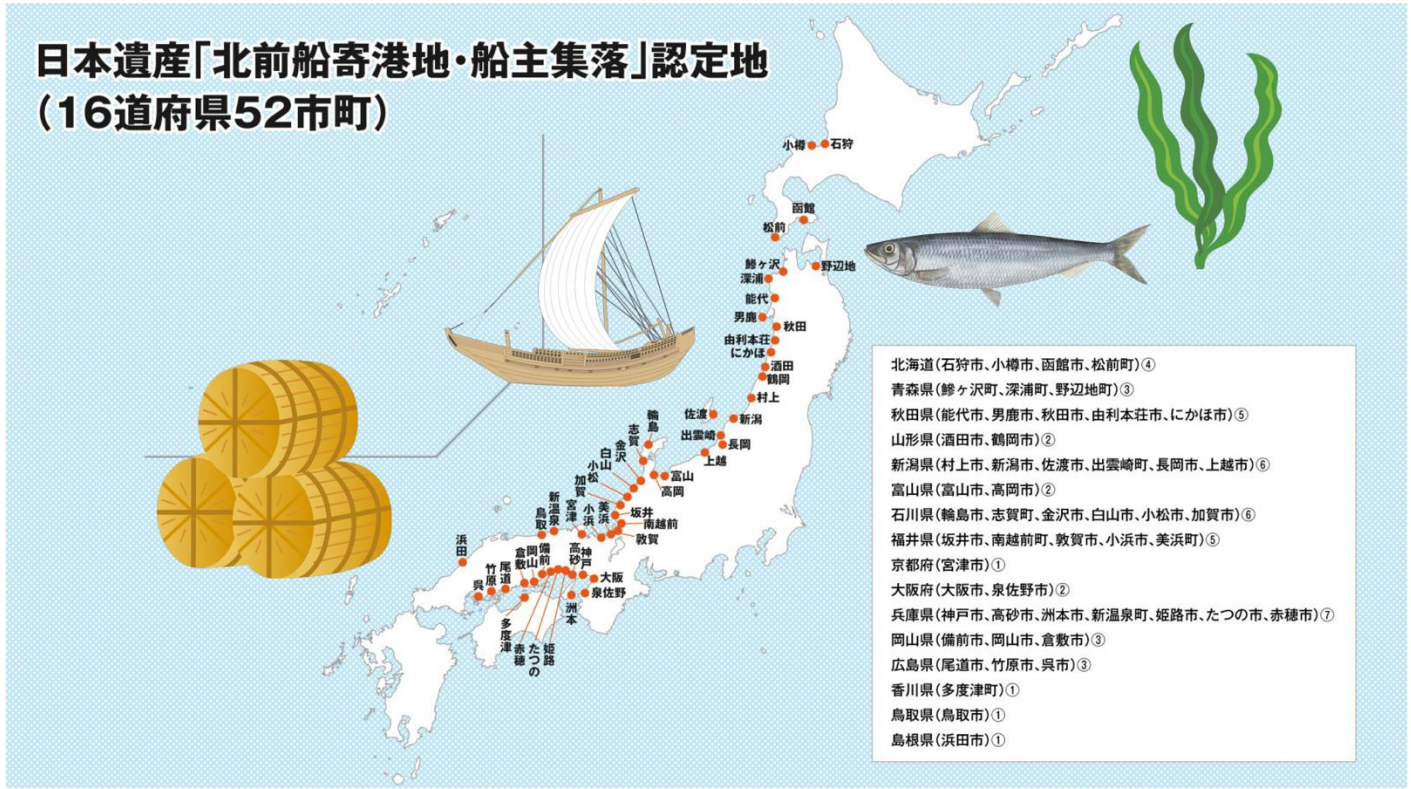
場所

日本海が大部分
北海道西岸・東岸、青森、
佐渡、飛島、能登半島など

→ 航路標識（常夜灯・日和山・灯台）が整備され、**重要な役割を担う**

日本遺産「北前船寄港地・船主集落」

「灯台」「常夜灯」「日和山」などが、**日本遺産の構成文化財**に認定されている





旧福浦灯台

石川県志賀町



浜町の常夜燈

青森県野辺地町



日和山

北海道小樽市

日本遺産北前船データベース https://kitamae-bune-db.com/db/

北前船を支えた装置群

航路標識

- 常夜灯
- 灯明台・高灯籠
- 日和山（日本独自）
- 灯台
- 凧 など

港湾施設

- 方角石
- 係留杭・舟つなぎ石
- 波止場
- 湛保（たんぼ）
- 蔵・倉庫

祭礼・民俗・信仰

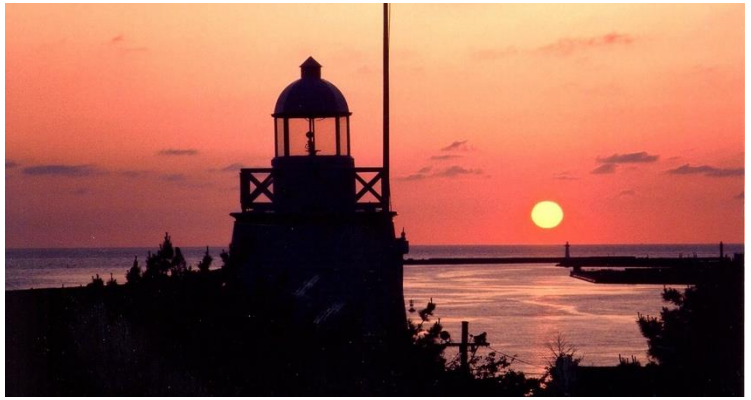
- 航海中の民俗
  （オカムイマイリ）
- 寺社・起舟祭
- 追分節・ハイヤ節
- 奉納物（船絵馬など）

→ 航海と交易・交流を支えた**「装置群」と「制度群」**として捉える

北前船の様々な航路標識・装置群



旧福浦灯台（石川県志賀町）



日和山（山形県酒田市）



高灯籠（福井県敦賀市）



杭（青森県深浦町）



鳥居崎（青森県深浦町）



福山波止場（北海道松前町）

日本遺産北前船データベースより

「海と灯台学」研究と北前船

日本財団「海と灯台プロジェクト」（2020年～）の一環で、灯台を学際的に捉える**「海と灯台学」**の研究が進む

2024年9月

第1回共同研究会で報告　高野 宏康

「北前船の時代の交流・交易を支えた装置群と制度群」

2025年3月

『海と灯台学Journal』創刊準備号　高野 宏康

「北前船の航海を支えたランドマーク～常夜灯・日和山・灯台～」

2025年10月

海と灯台学カンファレンス2025　第3セッションに登壇

「北前船と常夜灯・灯台～歴史的ストーリーとその活用～」

2026年

本日の講演②

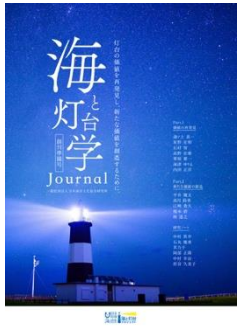
『海と灯台学ジャーナル』vol.1　西井 亨 氏

「北前船と近世近代の航路・航路標識―瀬戸内芸予諸島を中心に―」

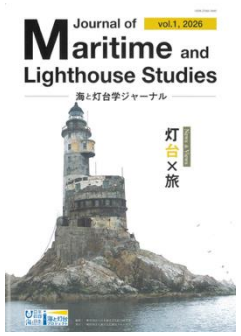
2026年

『海と灯台学ジャーナル』vol.1　稲穂 将士 氏

「近世における航路標識としての灯明の維持管理―但馬国諸寄浦を事例に―」



創刊準備号
（2025年）



vol.1
（2026年）

発行：一般社団法人日本海洋文化総合研究所　https://jimc.or.jp/

2

航路標識の担い手と役割の変遷

浜町の常夜灯（青森県野辺地町）

・文政10（1827）年建設。夜間に航行する船が安全に出入りできるように

・野辺地湊の先端、湊役所の前に位置

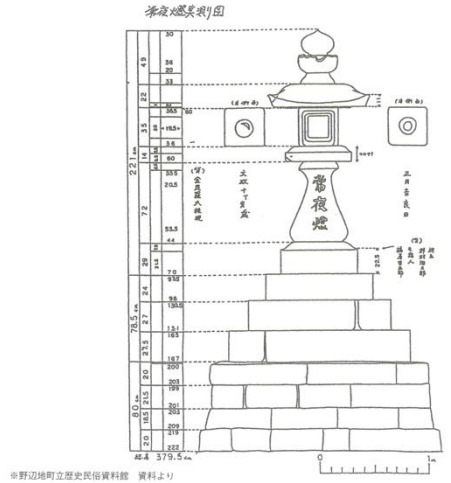
・花崗岩製。正面に「常夜燈」、背面に「金毘羅大権現」と刻む

・毎年旧暦3月10日（金毘羅の縁日）から10月10日まで毎晩点灯

・野辺地町指定史跡（1997年）



浜町の常夜灯



実測図　高さ約380cm
（野辺地町歴史民俗資料館）

常夜灯を支えた担い手

北前船主・船持商人・地域の人々が、常夜灯を**「建て・運び・灯し続けた」**

建てる（施主）

野村治三郎

- 野辺地の北前船主
- 金10両・10貫文で購入
- 経費・物資を負担

運ぶ（世話人）

橘屋吉五郎

- 塩飽諸島広島の船持商人
- 1400石積の八幡丸で運搬
- 運賃は無料

灯す（管理・運営）

三国屋（浜町）

- 代々、点灯と管理を継承
- 点火料に毎年白米1俵
- 明治30年代まで継続

油は白絞（しらしめ）を月に1升。灯籠に茜染めの木綿を貼り、週に1度張り替え → **赤い灯り**

基礎石の背面には、施主・野村治三郎と世話人・橘屋吉五郎の名が刻まれる

各地の常夜灯・灯明台・高灯籠



常夜灯（広島県尾道市）
文化13（1816）年



灯明台（岡山県倉敷市）
文久3（1863）年



高灯籠（福井県敦賀市）
享和2（1802）年

・建造物として確認される最古の例は、鎌倉時代の住吉大社（摂津国）の高灯籠

・港に近い**神社の境内**などにも多く設置され、設置場所は近代灯台と異なる

日和山

・船乗りが出港前に**「日和」（天候）を見た山**

・単なる地形ではなく、寄港地に整備された
港湾施設の一種

・日和山は**日本以外には存在しない**とされる
（南波松太郎）

・文献で確認できる現存最古は、
寛文3（1663）年の伊豆国下田・大浦の日和山

・十二支で方位を刻んだ**方角石**が置かれた



日和山（石川県志賀町）



方角石（新潟県新潟市）

日和山の役割

主な役目

- 日和をみる
- 出船を見送る
- 入船を見る
- 入船との連絡
- 入船の目印になる

副次的な役目

- 遊覧の場所
- 商人の商況判断の材料を得る
- 見張り番所・砲台の設置

南波松太郎による整理。航路標識にとどまらず、出入港の確認・連絡から
商況判断まで担う多機能な港湾施設だった

旧福浦灯台（石川県志賀町）

日野家が約300年にわたり、**灯りを守り続けた**

慶長13（1608）年	**日野資信（ひのすけのぶ）が日和山の岩壁で篝火をたく**
その後	篝火堂を建て、日野家が代々守る
明治9（1876）年	**第17代 長兵衛（吉三郎）が自費で建造**
明治11（1878）年	岩倉具視より感謝状
明治41（1908）年	福浦村営となる

木造洋式灯台として日本最古とされる（石川県指定史跡）



旧福浦灯台（日和山の上に建つ）



日和山の方角石

弘化4（1847）年、船頭の
佶平が海上安全を願い寄進

小樽　―日和山・常夜灯・灯台

幕末
祝津の高島岬が
日和山に

明治4（1871）年
信香町に
常夜灯を設置

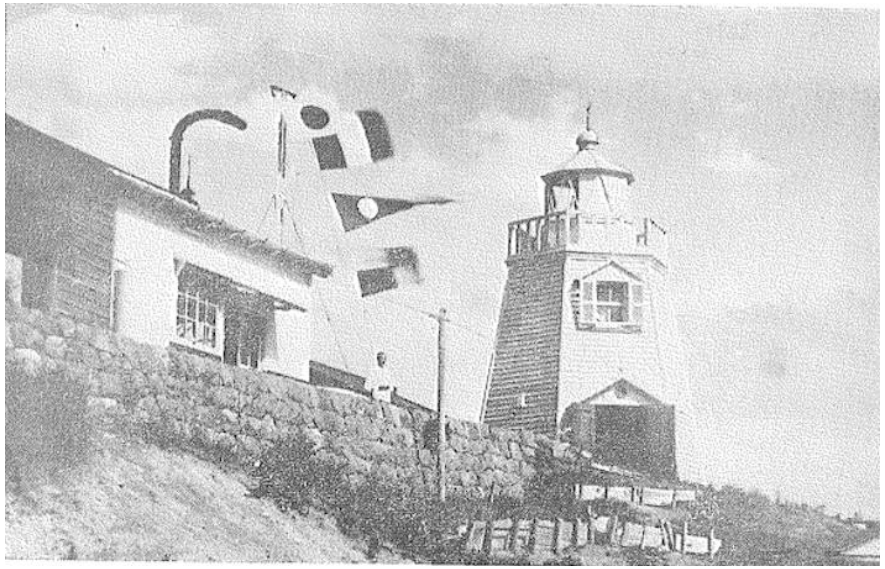
明治7（1874）年
常夜灯が焼失
約10年再建されず

明治16（1883）年
日和山の頂上に
日和山灯台

昭和28（1953）年
コンクリート造に
改築



常夜灯（小樽海関所燈台）『小樽市史』（1958）より



木造六角形の日和山灯台『祝津町史』（1972）より

北海道で
2番目
の近代灯台

（明治5年の
納沙布岬灯台に次ぐ）

小樽の常夜灯と船入澗

・明治4（1871）年、海関所があった勝納川河口の信香町に**常夜灯**（小樽海関所燈台）。ガラス張り、高さ約7.8mで小樽の名所に

・明治7（1874）年に焼失。約10年再建されず、明治16年、祝津の日和山に灯台が建つ

・1997年、**入船川河口の船入澗**だった場所（メルヘン交差点）にモニュメント

・周辺には**北陸系の建物**や運上屋などがある

共成（精米会社、現・小樽オルゴール堂本館）
中越銀行小樽支店（現・銀の鐘）
戸出物産小樽支店（呉服問屋、現・ドラッグストア）



常夜灯のモニュメント（メルヘン交差点）

> **「新天地に未来をかけた人たちは、その光源を親しみを込めて常夜灯と呼びました」**
>
> 『小樽市史』より

3

歴史的ストーリーの活用

～船内アナウンスの事例～

新日本海フェリーの船内アナウンス

・**新日本海フェリー**：「現代の北前船」として
1970年、舞鶴―小樽間に就航

・観光庁事業で、**通過ポイントの船内アナウンス**に
北前船・常夜灯・灯台・日和山・難船・ジオなどの
ストーリーを盛り込み放送

・デッキで現地を見ながら聞くことで、
北前船時代の航海を体感できる

・分離しがちな広域の北前船寄港地や
灯台のストーリーを一体的に紹介。
船旅の満足度も向上（アンケート結果）



山　名	標　高	都道府県
余別岳	1,298m	北海道
駒ヶ岳	1,131m	北海道
大千軒岳	1,072m	北海道
岩木山	1,625m	青森県
太平山	1,171m	秋田県
鳥海山	2,236m	秋田県
月　山	1,980m	山形県
湯殿山	1,500m	山形県
朝日岳	1,870m	山形県
飯豊山	2,105m	福島県
大日岳	2,128m	福島県
弥彦山	638m	新潟県
白　山	1,012m	新潟県
米　山	993m	新潟県
白　山	2,702m	岐阜県 石川県

船内アナウンスの事例①　禄剛崎

16:51 通過　敦賀ー新潟航路　石川県珠洲市

船内アナウンス（抜粋）

ただいま本船は、能登半島の最先端、石川県珠洲市の
禄剛崎付近を航行中です。
禄剛崎付近は海難事故が多いため、古くから航路を
照らす狼煙（のろし）が上げられていました。
北前船の往来が増えてきた宝暦6（1756）年、
灯明台が設置されましたが、狼煙は、明治16年・
1883年、「日本の灯台の父」ブラントンにより
禄剛崎灯台が建設されるまで活用されていました。
禄剛崎灯台は、高さ12m、石造りで、現存する
能登半島最古の灯台です。



禄剛崎灯台（石川県珠洲市）



船内アナウンスの事例②　沢崎鼻

18:55 通過　敦賀―新潟航路　新潟県佐渡市

船内アナウンス（抜粋）

ただいま本船は、佐渡島の最西端に位置する小木半島の先端に立つ、沢崎鼻付近を航行中です。
西回り航路が整備されると北前船が多数訪れるようになり、特に小木港は佐渡有数の北前船の寄港地として繁栄しました。
八角形の沢崎鼻灯台は、小木港に入港する船舶が第1目標とする灯台として、1928年に点灯を開始しました。高さは24.2mで、佐渡一の高さを誇ります。



沢崎鼻灯台（新潟県佐渡市）



まとめ

1. 北前船の航海には、常夜灯・日和山・灯台など
   多様な航路標識が欠かせなかった

2. 常夜灯や灯台は、北前船主・船持商人・地域の人々が
   建設・運搬・点灯を担った ―担い手の歴史―

3. 担い手を含む「灯台」の歴史的ストーリーは、
   観光や地域づくりに活かすことができる

→ 第2部　深掘りトークセッションへ

令和8年度 北前船日本遺産オンラインセミナー　第1回 北前船と「灯台」編

KITAMAE-BUNE

日本遺産

第2部

深掘りトークセッション






登壇者のご紹介

パネラー

野内 隆裕 氏

「北前船と日和山」

「日和山五合目」館長、「路地連新潟」代表

パネラー

西井 亨 氏

「瀬戸内海芸予諸島の灯台・航路標識と北前船」

尾道市企画財政部文化振興課
課長補佐兼文化財係長（学芸員）

コーディネーター

高野 宏康

北前船日本遺産推進協議会遺産価値創造プロデューサー、
小樽商科大学客員研究員

講演①

北前船と日和山

野内 隆裕 氏

「日和山五合目」館長
「路地連新潟」代表



日和山（新潟県新潟市）

講演②

瀬戸内海芸予諸島の灯台・航路標識と北前船

西井 亨 氏

尾道市企画財政部文化振興課
課長補佐兼文化財係長（学芸員）



大浜埼灯台（広島県尾道市）

深掘りトークセッション

意見交換・質疑応答

パネラー
野内 隆裕 氏

パネラー
西井 亨 氏

コーディネーター
高野 宏康

北前船日本遺産オンラインセミナー（全4回）

第1回	第2回	第3回	第4回
「灯台」編	「経営」編	「信仰」編	「人物」編
10/16（金）	11/13（金）	12/4（金）	1/15（金）
本日			

第2回の講師

川夏 晴夫 氏（兵庫県新温泉町教育委員会・学芸員）
横木 剛 氏（新潟大学非常勤講師）

いずれも金曜 18時～19時半、Zoomによるオンライン開催。各回終了後、アーカイブ配信いたします。

全4回すべて受講された方には、**受講修了証と日本遺産北前船ノベルティ**を贈呈します。

アーカイブ　https://kitamae-bune-db.com/onlineseminar/














五助小路

roji-ren niigata

GOOD DESIGN
路地連新潟
roji-ren niigata



野内隆裕　のうちたかひろ

1968年　新潟市 生まれ

路地連新潟　代表

日和山五合目　館長

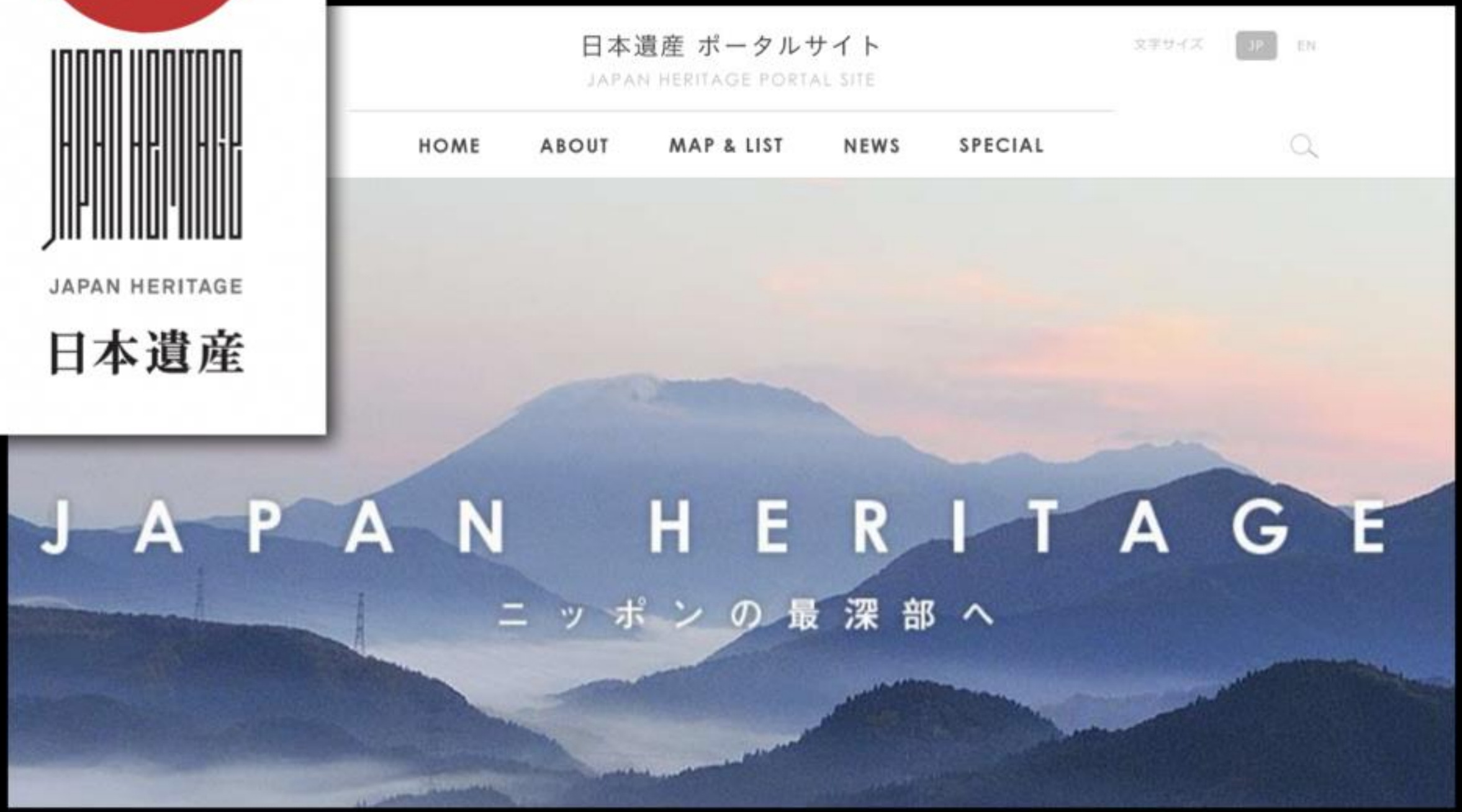


北前船と日和山

日本遺産

JAPAN HERITAGE

日本遺産



日本遺産

荒波を越えた 男たちの 夢が紡いだ 異空間

～北前船寄港地・船主集落～



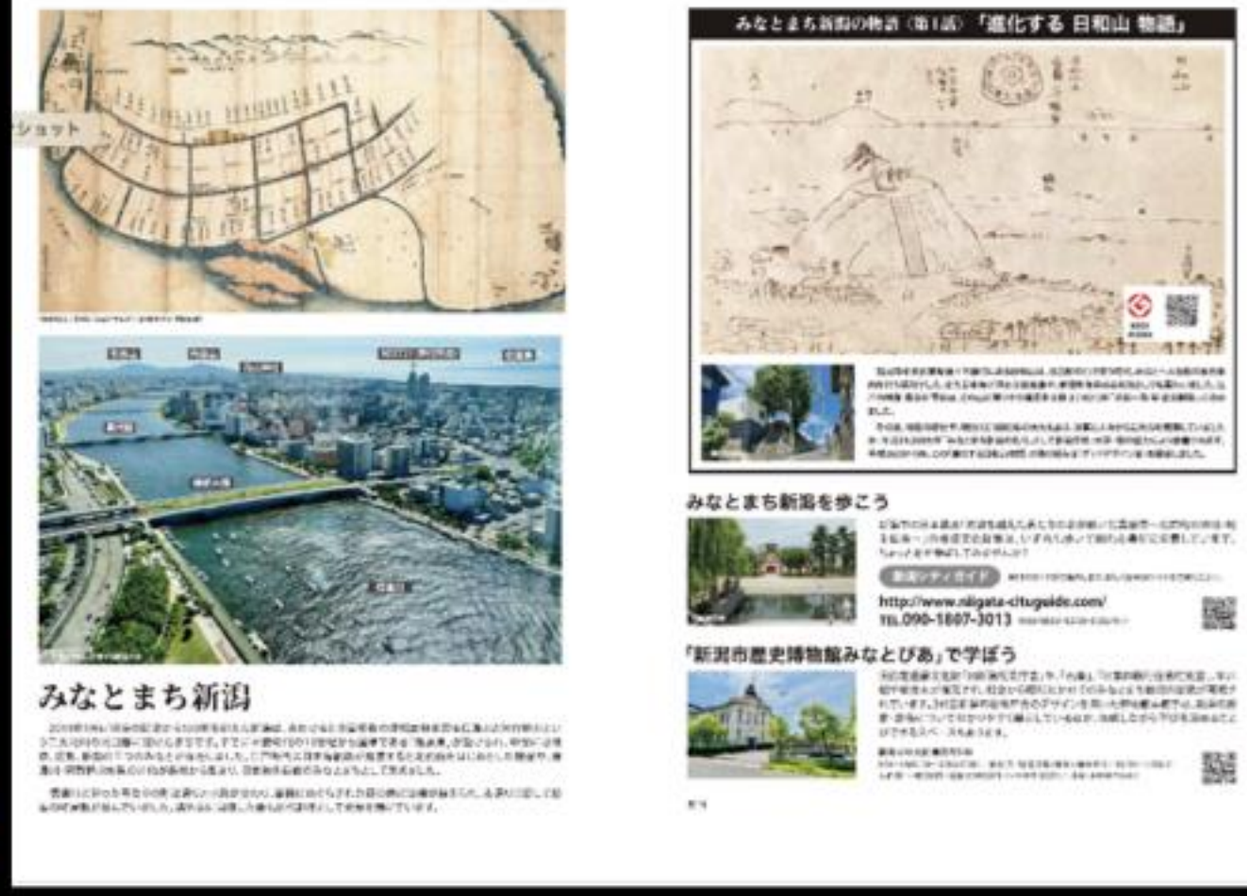
新潟市内の構成文化財

2017年　　11件

2026年　　追加3件







2023年　日本遺産　新潟市　パンフレット











2024年　日本遺産　新潟市　パンフレット2

1

大船絵馬



2

燕喜館

（旧齋藤家住宅）



3

旧齋藤家別邸

（旧齋藤氏洋館庭園）



4

新潟まつり

（民俗・住吉神社）



5

日本舞踊市山流

（古町芸妓）



6

日和山



7

旧小澤家住宅



8

金刀比羅神社奉納模型和船



9

金刀比羅神社雛船彫刻絵馬



10

湊稲荷神社願懸け高麗犬



11

新潟奉行川村修就関係資料



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が
結いだ舞台町
―北前船寄港地・船主集落の物語―

新潟市の構成文化財

2023年　日本遺産　新潟市　パンフレット

北前船

みなとまち新潟
日本遺産めぐり

JAPAN HERITAGE
日本遺産

KITAMAE-BUNE

新潟市

荒波を越えた男たちの夢が結いだ美交四
～北前船寄港地・船主集落～

巻之三



日本遺産とは







みなとまち新潟

2015年1月に新潟の開港から150年を迎えた新潟は、全国有数の地域面積を誇る都市と財政的にというこれまでの中に加え開けたまちです。すでに平安時代の文書などから記されている「新潟津」が設けられ、中世には港湾、河川、新潟のこつのみなとの存在、また、江戸時代に日本海側最大の湊町として栄えました。

佐渡に近かったこともあり、古くから人の往来が多く、経済にめぐらされた人間の中には新潟の人、芸術人に関して新潟の文化財がたくさんありました。国内最古の歴史ある町並みとして保存も続けています。

みなとまち新潟の物語（第1話）「古町花街」





みなとまち新潟を歩こう

新潟シティガイド

https://niigata-cityguide.com/
TEL090-1807-3013



「新潟市歴史博物館みなとぴあ」で学ぼう

2026年　日本遺産　新潟市　パンフレット3

北前船とは

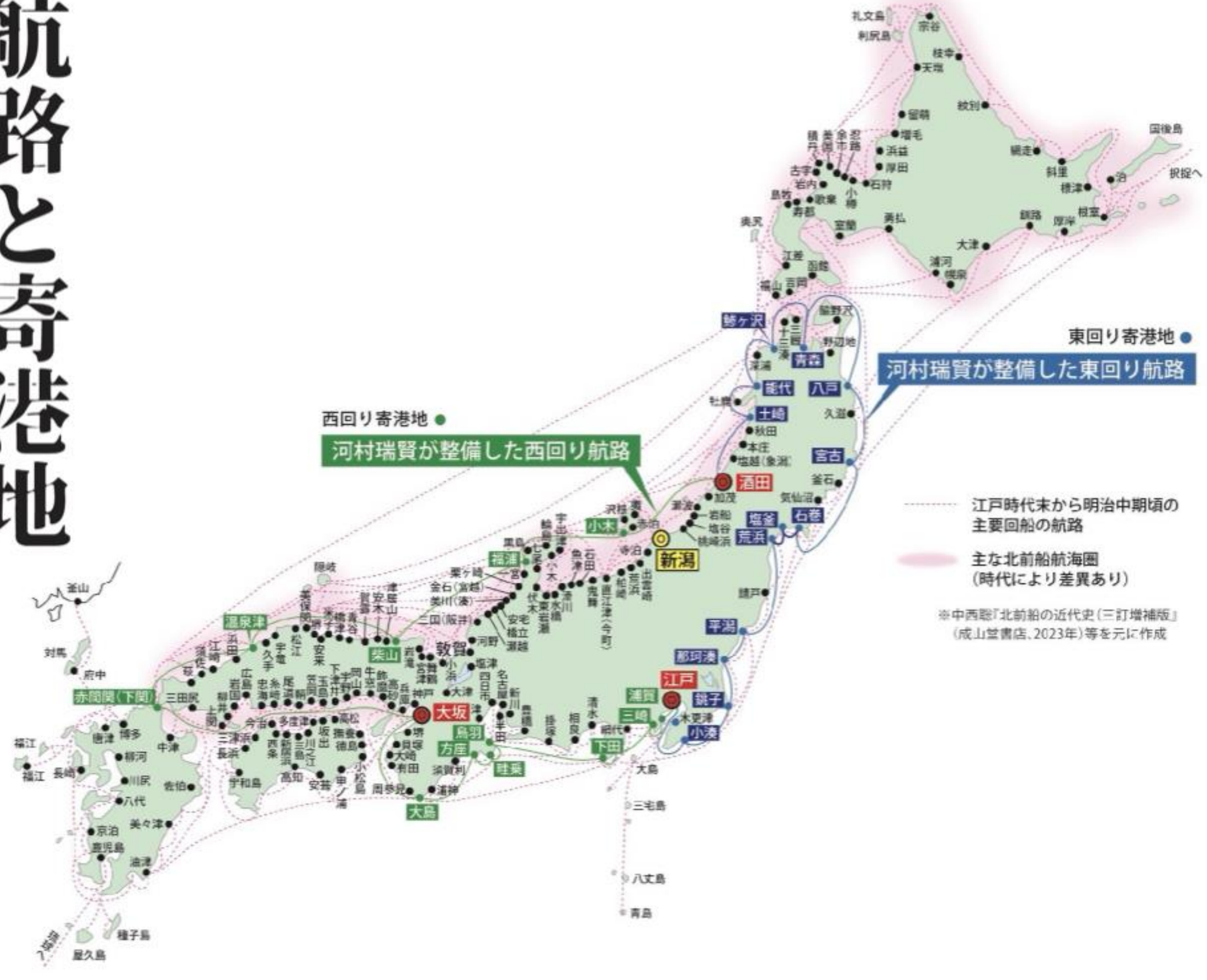
きたまえぶね



明治期「新潟信の川　河口ノ入船」（新潟市歴史博物館みなとぴあ所蔵）

❶「江戸時代中期（18世紀中ごろ）～明治30年代」に
❷「大阪と北海道を、主に日本海回り」で
❸「商品を売り買いしながら結んでいた商船群」
を総称する呼び名とされています※2。

航路と寄港地


西回り寄港地
河村瑞賢が整備した西回り航路
東回り寄港地
河村瑞賢が整備した東回り航路
江戸時代末から明治中期頃の主要回船の航路
主な北前船航海圏（時代により差異あり）
※中西聡『北前船の近代史（三訂増補版）』（成山堂書店、2023年）等を元に作成
新潟
酒田
小木
福浦
柴山
温泉津
赤間関（下関）
大坂
方屋
鳥羽
尾道
土崎
能代
青森
十三湊
八戸
宮古
釜石
石巻
塩釜
荒浜
平潟
那珂湊
江戸
銚子
浦賀
三崎
下田
小湊
敦賀
松前
江差
函館
福山
三厩
吉岡
深浦
弘前
野辺地
久慈
秋田
本荘
塩越（象潟）
加茂
寺泊
直江津（今町）
出雲崎
船橋
荒浜
銚子
木更津
相良
清水
網代
大島
三宅島
八丈島
青島
宗谷
枝幸
天塩
紋別
留萌
増毛
浜益
厚田
石狩
小樽
岩内
古宇
積丹
美国
余市
忍路
網走
斜里
根室
厚岸
釧路
標津
泊
国後島
択捉へ
礼文島
利尻島
奥尻
島牧
寿都
歌棄
室蘭
勇払
大津
江差
松前
福山
三厩
吉岡
深浦
弘前
野辺地
十三湊
青森
深浦
能代
八戸
秋田
本荘
塩越（象潟）
宮古
釜石
気仙沼
石巻
塩釜
荒浜
銚子
木更津
小湊
下田
相良
清水
網代
大島
三宅島
八丈島
青島
釜山
対馬
府中
福江
長崎
唐津
博多
中津
柳河
川尻
佐伯
八代
京泊
鹿児島
種子島
屋久島
隠岐
美保関
安来
松江
宇竜
久手
江崎
須佐
萩
三田尻
上関
柳井
岩国
広島
糸崎
尾道
玉島
笠岡
下津井
岡山
牛窓
飾磨
高砂
兵庫
神戸
津
大津
四日市
名古屋
新川
半田
常滑
伊勢
松阪
堺
貝塚
大崎
有田
湊
加太
和歌浦
周参見
浦神
串ノ浦
安芸
高知
宇和島
三津浜
長浜
今治
多度津
高松
善通寺
徳島
坂出
川之江
三島
新居浜
西条
津居山
安木
気比
敦賀
小浜
舞鶴
宮津
前滝
河野
塩津
三国（坂井）
芦原
安宅
橋立
瀬越
栗ヶ崎
一宮
金石（宮越）
美川（湊）
七尾
輪島
宇出津
小木
福浦
黒島
沢根
赤泊
寺泊
石田
魚津
滑川
水橋
氷見
伏木
栗崎
瀬波
岩船
塩谷
桃崎浜
加茂
寺泊
船橋
荒浜
出雲崎
直江津（今町）
荒浜
船橋
銚子
木更津
相良
清水
網代
大島
三宅島
八丈島
青島

航路と寄港地



西回り寄港地 ●

河村瑞賢が整備した西回り航路

東回り寄港地 ●

河村瑞賢が整備した東回り航路

江戸時代末から明治中期頃の主要回船の航路

主な北前船航海圏（時代により差異あり）

※中西聡『北前船の近代史（三訂増補版）』（成山堂書店、2023年）等を元に作成

航路と寄港地



河村瑞賢が整備した西回り航路
河村瑞賢が整備した東回り航路
東回り寄港地
江戸時代末から明治中期頃の主要回船の航路
主な北前船航海圏（時代により差異あり）
新潟
大坂
酒田
小木
福浦
柴山
温泉津
赤間関（下関）
大島
土崎
能代
八戸
宮古
石巻
塩釜
荒浜
平潟
那珂湊
江戸
銚子
浦賀
三崎
下田
方座
鳥羽
唐津
青森
函館
松前
江差
小樽
札幌
室蘭
苫小牧
函館
釧路
根室
網走
稚内
利尻島
礼文島
奥尻島
佐渡
対馬
壱岐
五島
福江
長崎
博多
中津
下関
三田尻
尾道
岡山
兵庫
神戸
堺
和歌山
高知
安芸
徳島
松山
今治
浜田
松江
敦賀
小浜
舞鶴
伏木
七尾
輪島
直江津（今町）
寺泊
出雲崎
沢根
両津
加茂
岩船
荻ノ浜
女川
気仙沼
釜石
久慈
宮古
大島
三宅島
八丈島
青島
種子島
屋久島
奄美大島
徳之島
沖永良部島
与論島
沖縄本島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島

みなとまち新潟


新潟市
中央区
210km

信濃川

長野・埼玉・山梨 県境の

甲武信ヶ岳

↓

千曲川

↓

信濃川

↓

新潟港

367km

新潟市
中央区

阿賀野川

栃木・福島 県境の

荒海山

↓

阿賀川

↓

阿賀野川

↓

新潟市松浜

210km



信濃川の河口　新潟港



信濃川の河口　新潟港



信濃川の河口　新潟港



信濃川の河口　新潟港

見張茶屋弥次兵衛板
新潟真景
日和山五合目所蔵



天保14(1843)年 頃の新潟町

長岡藩領→幕府直轄地

見張茶屋弥次兵衛板
新潟真景
日和山五合目所蔵



天保14(1843)年 頃の新潟町

長岡藩領→幕府直轄地

白山神社



白山神社　尾道の石工の名



白山神社　尾道の石工の名

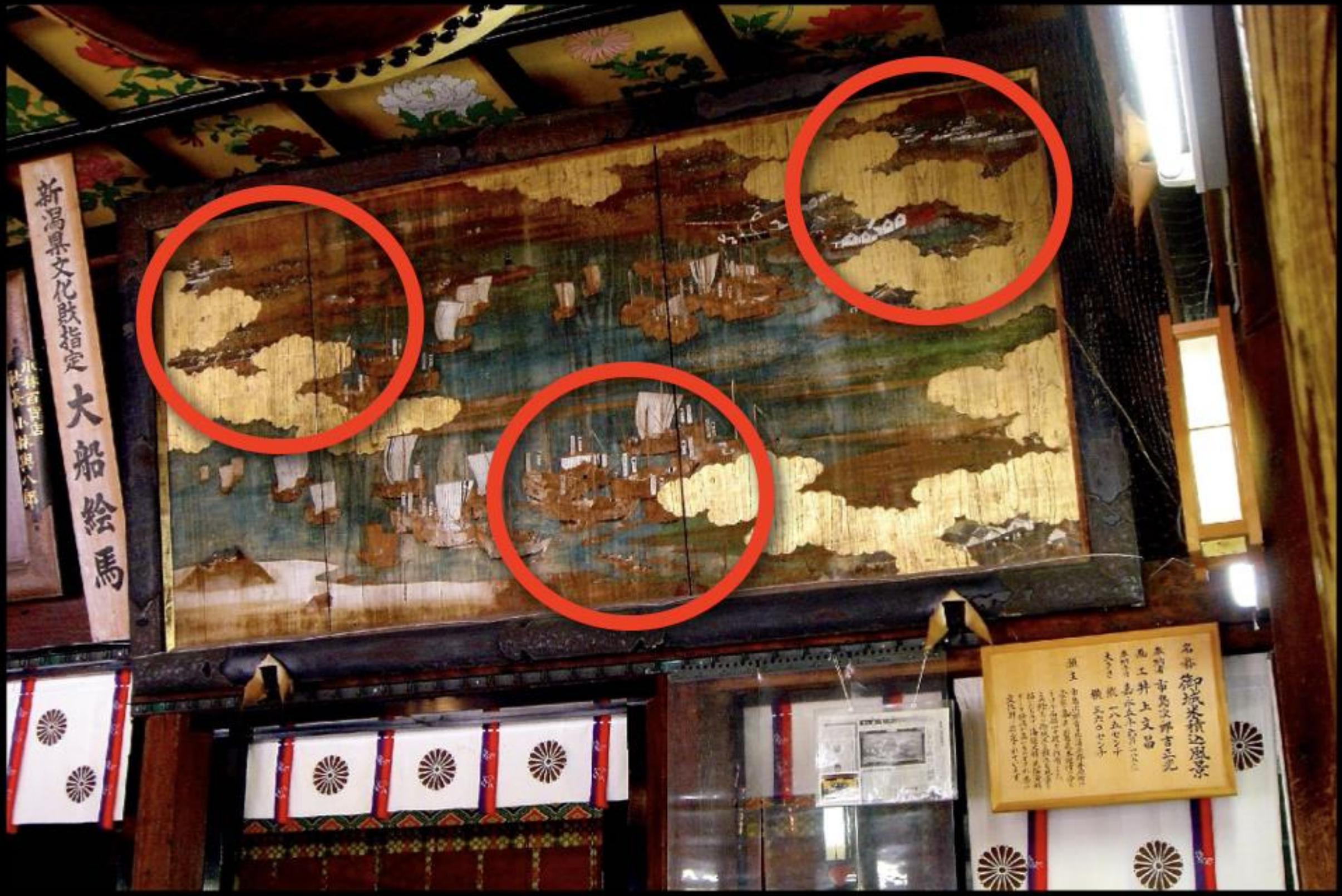


「白山神社　大船絵馬」



「白山神社　大船絵馬」

「白山神社　大船絵馬」



「白山神社　大船絵馬」



JAPAN HERITAGE

日本遺産

「白山神社　大船絵馬」

白山神社

見張茶屋弥次兵衛板
新潟真景
日和山五合目所蔵



天保14(1843)年 頃の新潟町

長岡藩領→幕府直轄地

見張茶屋弥次兵衛板
新潟真景
日和山五合目所蔵



天保14(1843)年 頃の新潟町

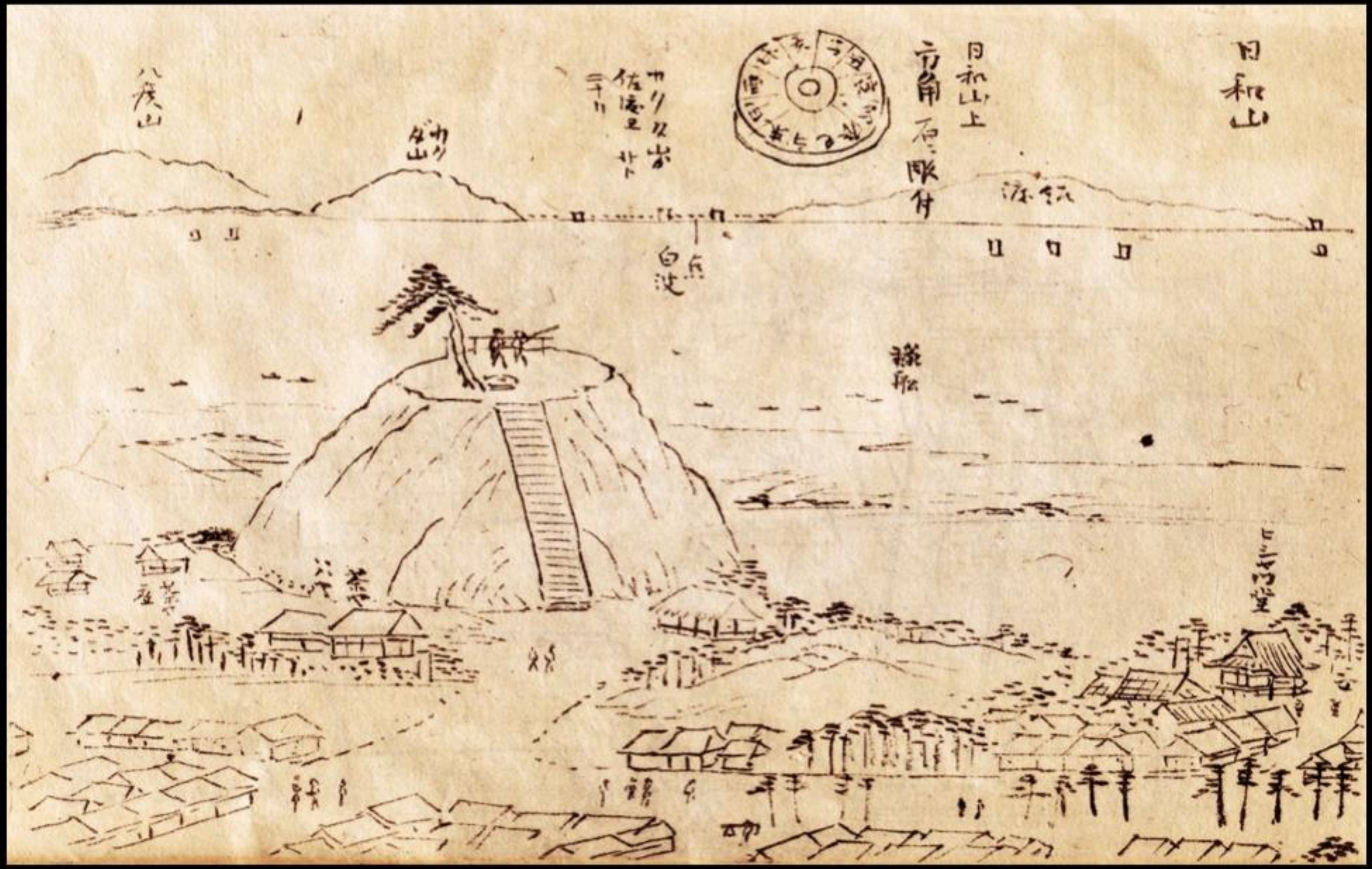
長岡藩領→幕府直轄地



信濃川の河口　新潟港



日和山



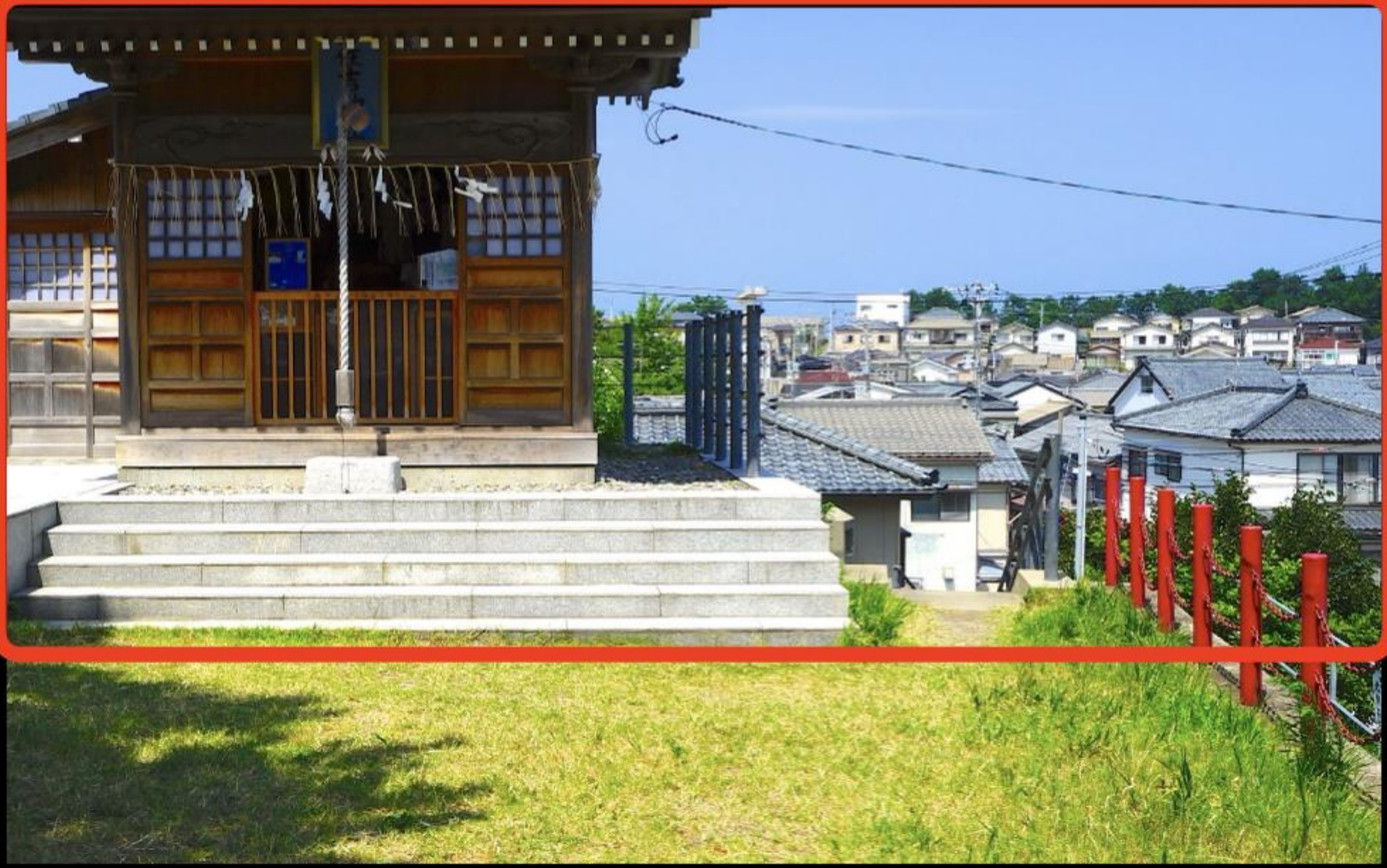
北国一覧写出羽越後　天保2年(1831)



北国一覧写出羽越後　天保2年(1831)



日和山からの眺め　日本海方面



日和山からの眺め　新潟砂丘



日和山（大正時代）からの眺め　新潟砂丘



日和山（大正時代）からの眺め　新潟砂丘



日和山からの眺め　新潟砂丘



新潟砂丘



新潟砂丘　日和山展望台


新潟市
中央区

信濃川

長野・埼玉・山梨 県境の

甲武信ヶ岳

↓

千曲川

↓

信濃川

↓

新潟港

367km

新潟市
中央区

阿賀野川

栃木・福島 県境の

荒海山

↓

阿賀川

↓

阿賀野川

↓

新潟市松浜

210km

信濃川

長野・埼玉・山梨 県境の

甲武信ヶ岳

↓

千曲川

↓

信濃川

↓

新潟港

367km

新潟市
中央区

阿賀野川

栃木・福島 県境の

荒海山

↓

阿賀川

↓

阿賀野川

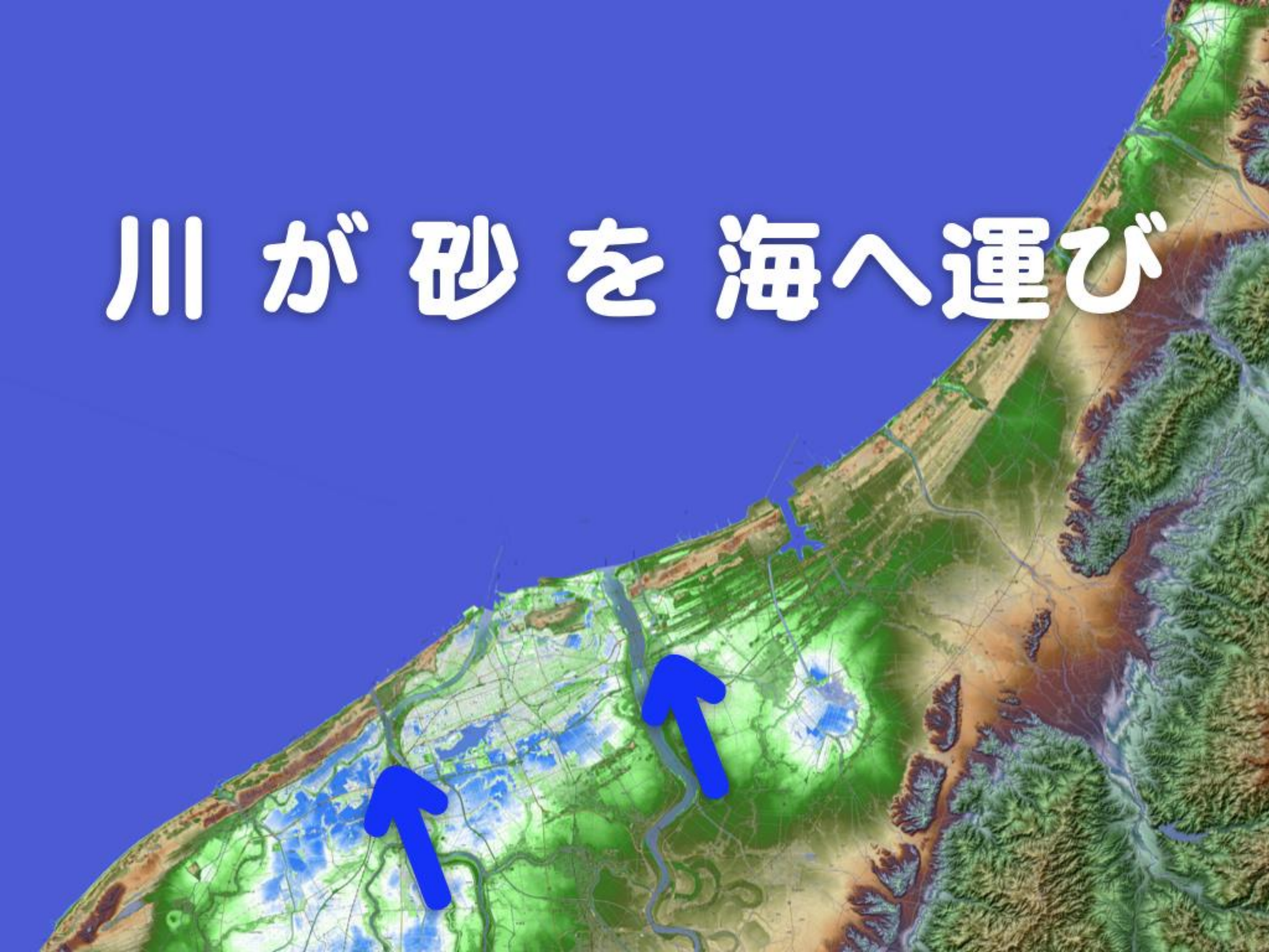
↓

新潟市松浜

210km


新潟市
中央区

川が砂を海へ運び



波が砂を岸へ運び



風が 砂 を積み上げる



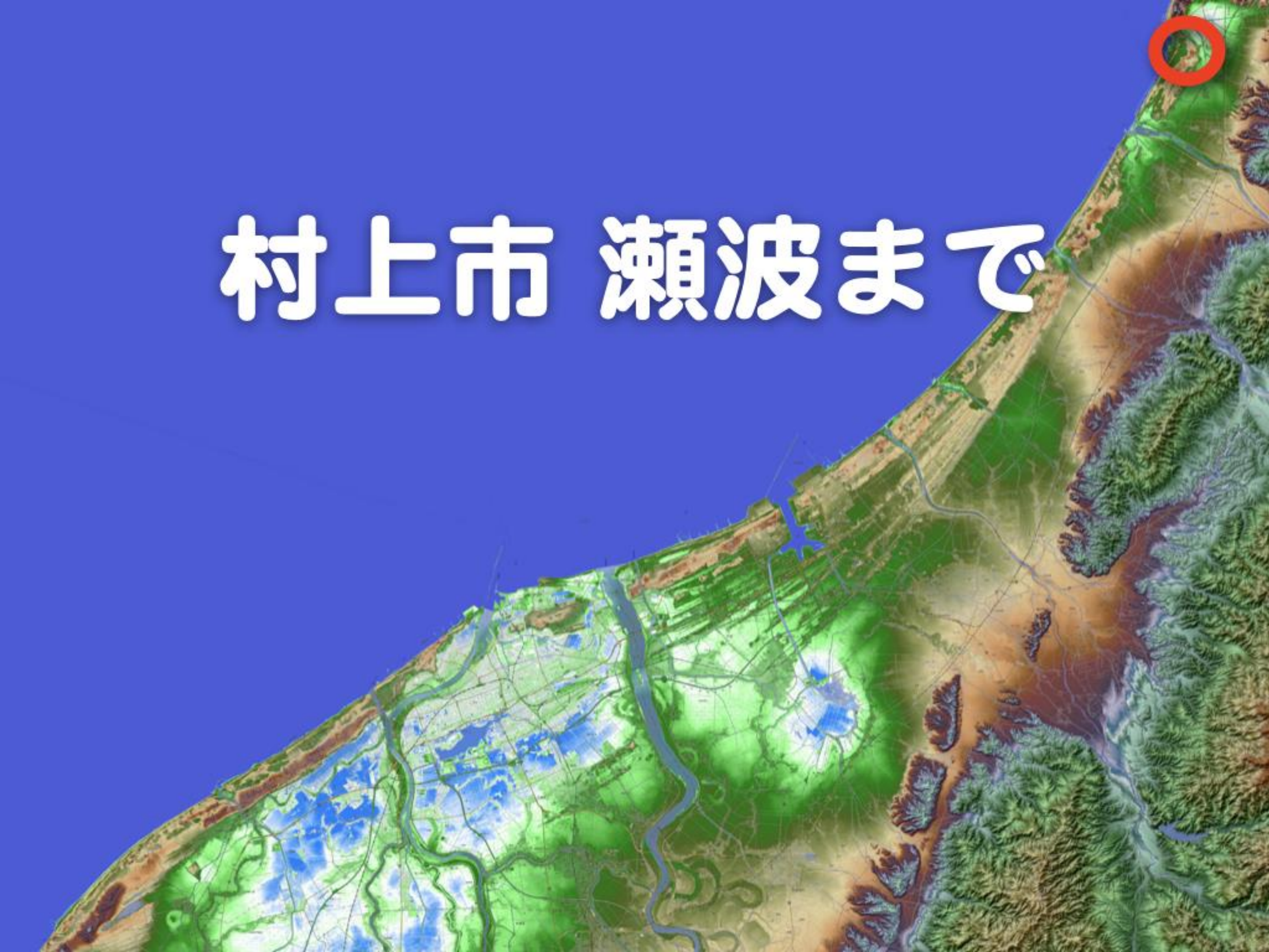
それが砂丘



角田山の東麓より



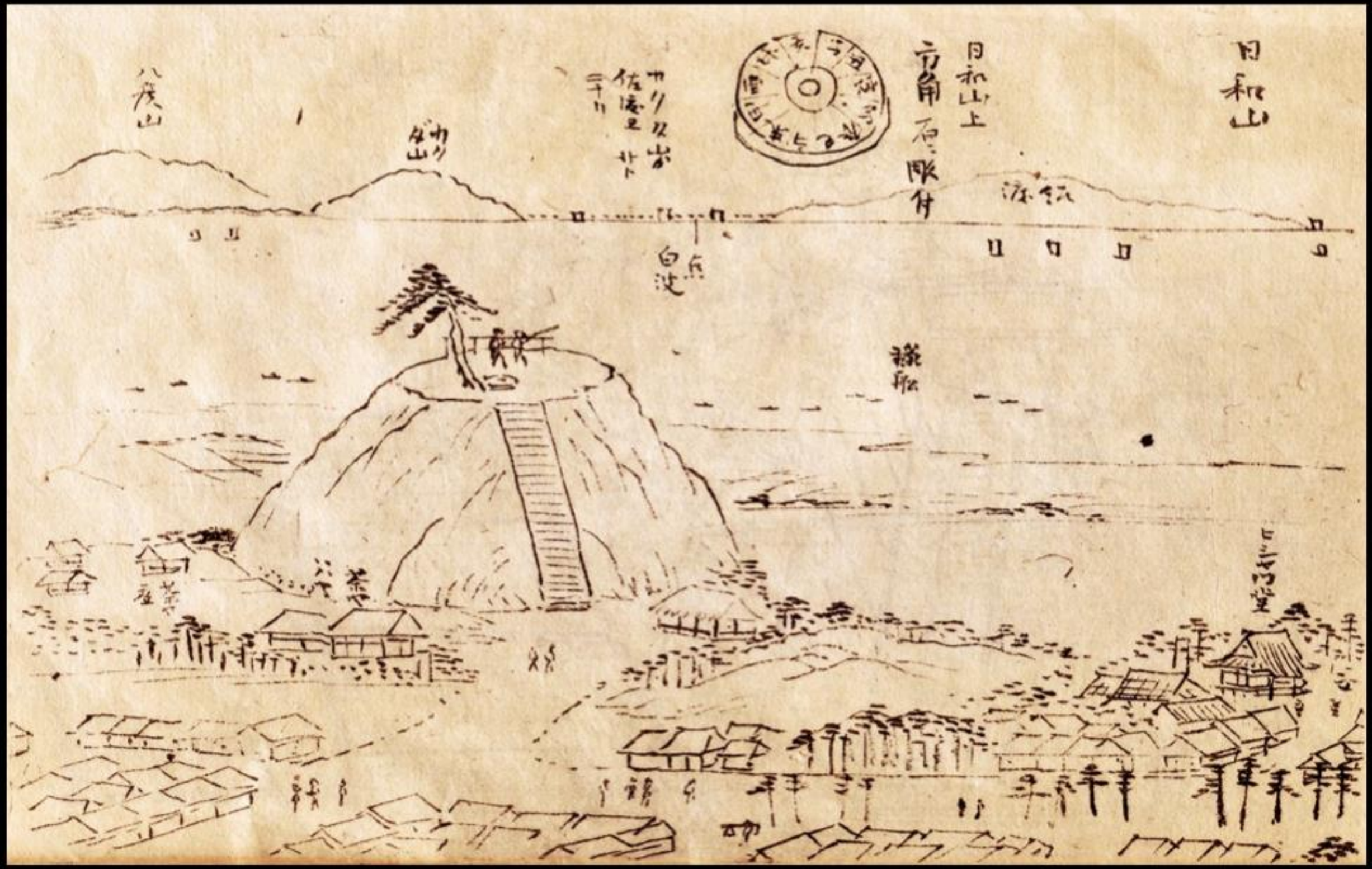
村上市 瀬波まで



長さ 70km

日本最大級の砂丘！





北国一覧写出羽越後　天保2年(1831)



日和山（大正時代）からの眺め　新潟砂丘



日和山からの眺め　日本海方面



日和山

みなとまち新潟の

シンボル

日和山

ものと人間の文化史６０

日和山

南波松太郎

法政大学出版



南波松太郎

なんば　まつたろう

明治27年　平成7年

1894～1995

大阪市生まれ



全国 日和山・方角石 分布図

▲ 日和山の名称と、方角石が存在する。

▲ 日和山の名称が存在　方角石なし。

■ 日和山ではないがそれに準ずる名称がある。

● 日和山の名称はないが、方角石が存在する。



南波松太郎「日和山」法政大学出版局より

01

日和山は
帆船の行き交う時代
みなとを見渡していた
小高い山の事







1831年(天保2)の日和山

江戸の絵師　長谷川雪旦　画「北国一覧 出羽越後 写」より

02

新潟の町にもあり
水先案内の場、名所として
賑わっていました



1831年(天保2)の日和山

江戸の絵師　長谷川雪旦　画「北国一覧 出羽越後 写」より



大正期の日和山　名所絵葉書

03 しかし、まちの変化により人々から忘れられ



1831年(天保2)の日和山

江戸の絵師　長谷川雪旦　画「北国一覧 出羽越後 写」より

2006年頃の↑日和山

04

山頂の住吉神社と共に荒廃していました

2000年





2000年の日和山と山頂の住吉神社

山頂の方角石

05

有志により日和山の祭典は

1967年

昭和42年～ 復活されましたが



日和山住吉祭



日和山住吉祭　大黒舞



新潟下町をよくする会　日和山住吉神社青年部



日和山住吉祭　エビス舞

06

日和山の荒廃は
すすんでいました



荒廃する2000年の日和山住吉神社



新潟下町をよくする会　日和山住吉神社青年部

新潟のみなとを
語る上で欠かせない場所
それが日和山！



日和山住吉神社
久我隆利

水先案内発祥の地
下町に光を！



新潟下町をよくする会
吉江常浩

07

そんな中、自作の地図等で案内する者が現れると

1997年～



下町あるき



自作の案内板



日和山の面白さを市民に伝えよう

野内隆裕@にいがたなじらねっと



小路や町屋を新発見
心地よい汗 下町ウオーク

新潟市の下町を歩き、その魅力を再発見してもらおうという「下町にいがたウオーク」が十四日、行われた。市内外から約二百七十人が参加、心地よい汗をかきながら下町の新たな一面に触れていた。

同ウオークは地元の下本町商店会が中心となって開催しており、今年で八年目。

今回は「これまでの史跡巡りのルートを変更、地元でもあまり知られていない小路や町屋を見て回る新しいルートで行われた。

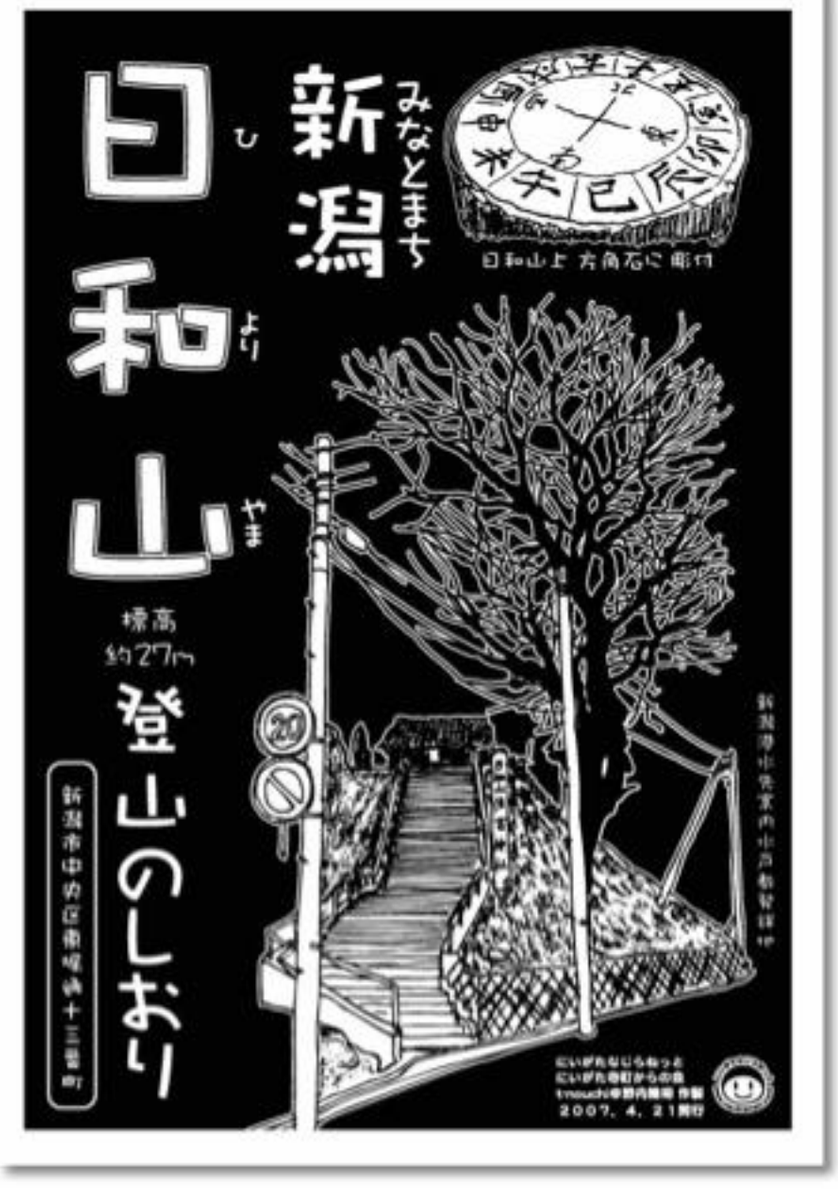
参加者たちはボランティアの案内人とともに、約二時間かけて下町を散策。秋晴れの空の下、本町通十三の曙公園から日和山共同墓地、日和山海岸ロード、寺町を歩いて回った。

途中、案内人が小路の名前の由来や史跡について説明。参加者たちは「知らなかった」と感心した様子で話に聞き入っていた。初めて参加したという同市紺三の会社員、岩間幸代さんさんは「市内に住んでいても知らないことが多かったので、いい勉強になった」と話していた。

同ウオークの後半は初めての試みとして、案内人らが下町の魅力などについて語るトークイベント「下町談義」も行われた。

案内人から史跡についての説明を聞く参加者たち＝新潟市四ツ屋町一の住吉神社

2002年新潟日報



まちあるき地図　日和山登山のしおり

日和山の顕彰を
手伝う仲間が集まります

08

2003年



寺町談議「新潟の日和山」



日和山山頂にて



日和山の面白さを市民に伝えよう

野内隆裕＆にいがた寺町からの会

にいがた寺町からの会
2001年～2013年





2003年　にいがた寺町からの会
寺町談議
日和山フィールドワーク

09

町の楽しさを発信すると
協力の輪はひろがり

2004年



にいがた
寺町からの会
2001年～2013年

2004年　花絵＠日和山　にいがた寺町からの会



2004年　花絵＠日和山　長岡造形大学OB 転太鼓舞＆駄太っ鼓　の太鼓披露





2004年　花絵＠日和山　チューリップの花絵で作られた北前船　と方角石

10

日和山の新たな活用が始まりました

2005年～2008年



2005年　花絵@日和山
長岡造形大学OB 転太鼓舞＆駄太っ鼓の太鼓披露



にいがた
寺町からの会
2001年～2013年



2006年　花絵@日和山



2007年　花絵@日和山



2008年　花絵@日和山
新潟大学工学部建設学科 岩佐研空室
にいがた寺町からの会



11

手作りの活動は 市民に山を再認識させます

2005年～2008年



新潟（日刊）

花絵と日和山

にいがた なじらねっと わくわく ①

「みなとの香り」感じて

昨年4月24日、「日和山」を花絵で飾った。左は飾り付けした石投。右上の切り込み写真は奉納花絵絵馬＝新潟市東堀通13

のうち たかひろ
1968年、新潟市の下町生まれ。「にいがた寺町からの会」会員。

日和山住吉神社

2005年　新潟日報



新潟日報　2005年（平成17年）2月1日（火曜）

港の安全支えた水戸教発祥の地

旧日和山を文化財に

地元住民、市に保護要望

下町の魅力づくり目指す

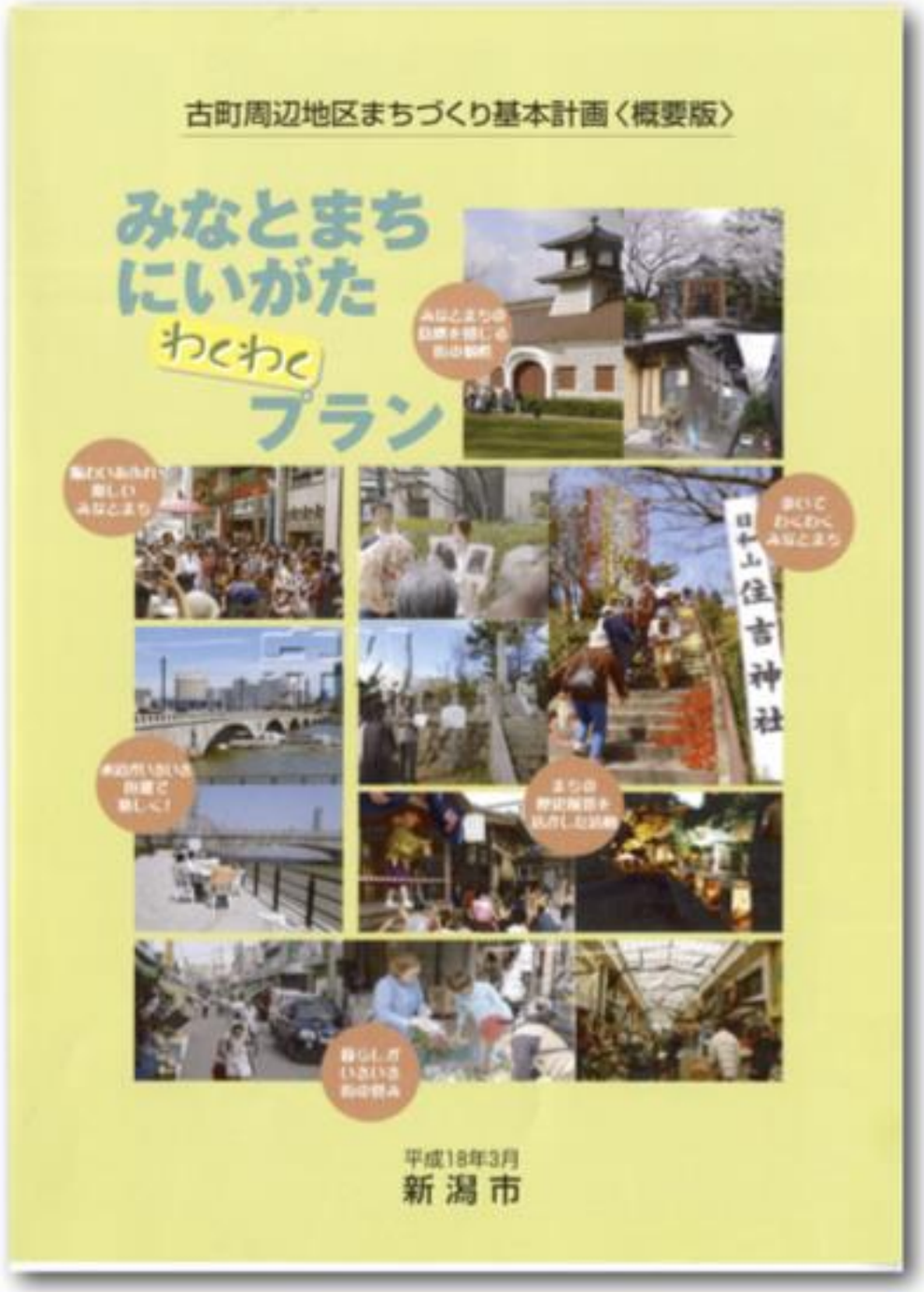
水戸教発祥の地といわれる旧日和山に建つ住吉神社＝新潟市東堀通13

2005年　新潟日報

12

そんな市民の活動に 行政も 協力参加

2007年～




（日刊） 新 潟 日 報 2008年（平成20年）1月30日（水曜日）

水戸教発祥地 旧日和山

憩いの場へ

頂上広げ 眺め良く

市 地域住民と検討重ねる

江戸時代から昭和初期まで新潟港の水先案内などの役割を担った「水戸教」発祥の地として知られる新潟市中央区東堀通十三の旧日和山の保存に向け、市が二〇〇八年度中に整備に乗り出す。〝縮町・新潟の歴史を物語るシンボルが来年三月までに、市民の憩いの場として生まれ変わる。

水戸教発祥の地とされる旧日和山は、廓小学校に近い住宅地にある海抜二十七㍍の丘。かつては海沿いにあり、頂上に建てられた舟見櫓から新潟港が一望できた。

新潟港は河口港で上流から流れてきた土砂により水深が浅い部分もあったため、水戸教の案内は欠かせなかった。旧日和山には現在も、方角を示す方角石や、江戸時代から水戸教を務めてきた伊藤仁太郎家の顕彰碑などの史跡が残る。

頂上には住吉神社があり、散歩に訪れる近隣住民もいるが、整備は行き届いていなかった。二年前には、市と地域住民、学識経験者らが「歴史的価値があるため保存が必要」として「旧日和山整備検討委員会」を発足。市内を見渡せる数少ない高所を交流の場として整備しようと、方向性を探ってきた。

整備では、約九百二十平方㍍の頂上部分を交流スペースとして広げるため、二つの石碑を中腹にある平地に移す。また、眺めをよくするため、住吉神社がある部分を「プラットホーム」として五十㌢ほど高くする。南東方向の樹木を移植、伐採することにより、河口付近を見渡しやすくする。階段、柵、照明などの改修も進める。

検討委のメンバーの久我敬利さんは「整備をきっかけに旧日和山の歴史的価値が見直され、新たな観光名所になってくれればいい」と話している。

市は、旧日和山で住吉祭が行われる七月以降の着工を目指し、現在は設計作業などを行っている。

市民の交流の場として市が整備を行う旧日和山＝新潟市中央区東堀通13

2008年　新潟日報

官民一体となり 整備する
日和山委員会 が誕生！

2007年～



2007年　日和山委員会　＋　新潟市
新潟大学工学部建設学科 岩佐研空室
日和山五合目での検討会



日和山
Project



2007年　日和山委員会　＋　新潟市
新潟大学工学部建設学科 岩佐研空室
日和山山頂での検討会



14

みなとまちの歴史や景観を楽しむ場へと

2007年～ 日和山 Project

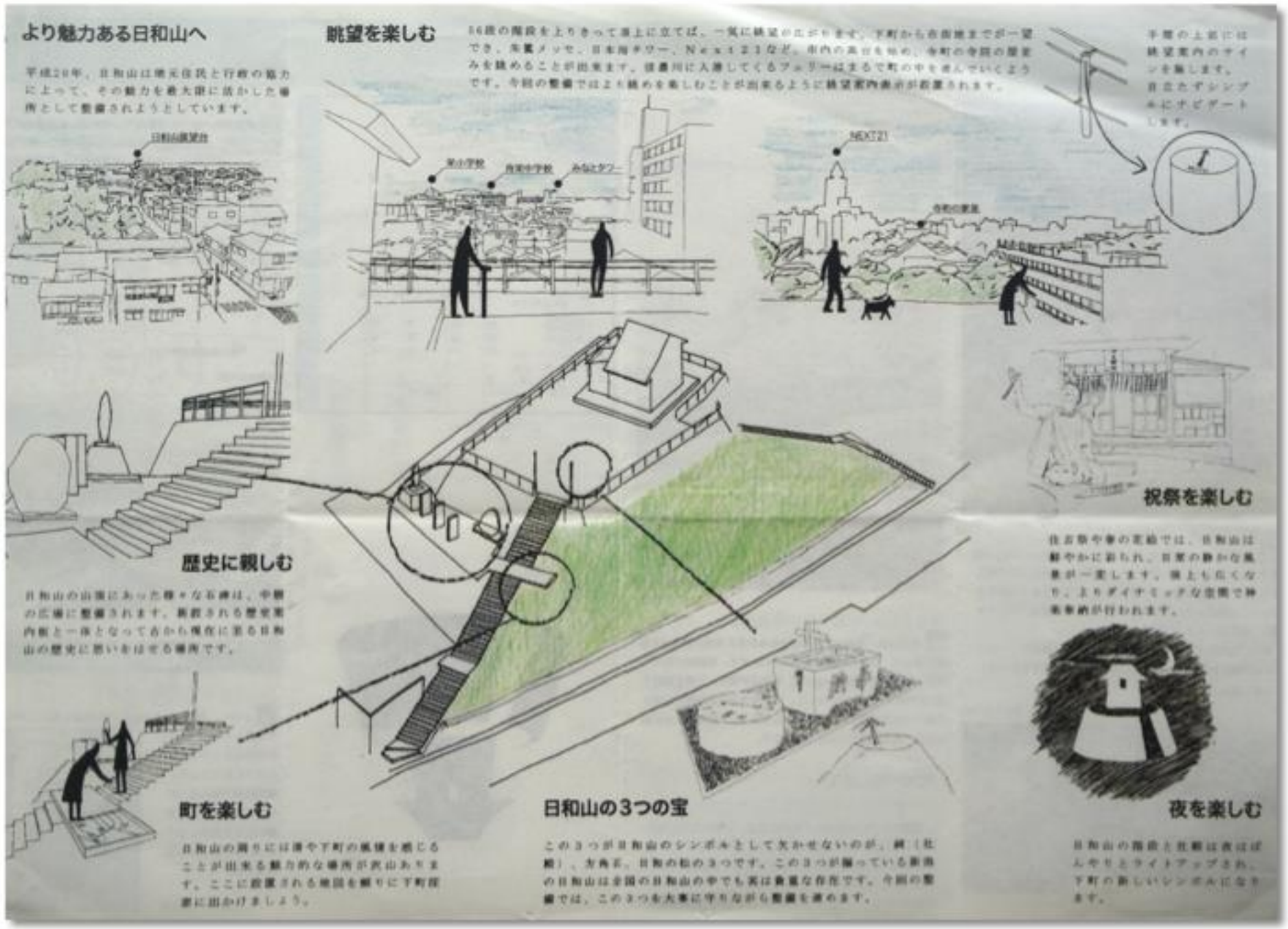


眺め保ち まちの象徴に

新潟大生ら再生の姿描く



新潟大学工学部建設学科
岩佐明彦准教授



日和山の魅力を　活かした整備がされると

2009年
再生！

日和山
Project





日和山七合目



歴史アーカイブ



株式会社フォーライツ
稲葉　裕



新潟大学工学部建設学科
岩佐明彦准教授

**日和山の魅力を
最大限に
活かした場所へ**



日和山からの眺望の整備





夜の日和山の照明デザイン

山頂の住吉神社も
有志によって再建されます

2009年
再生！

日和山
Project



**歴史的・文化的
価値を損なわず
利用機能も充実**



一級建築士事務所 アトリエ縁
清水　徹



住吉神社有志再建へ

日和山整備に合わせ

神体あす引っ越し

2008年　新潟日報



2009年　上棟式



「歴史資産」専門の建築家

清水 徹さん(32)

次世代に伝わるように

県等平町の金刀比羅宮絵馬殿　国の名建築に触れられるの　エ　縁」には、出会いを大切
の解体修復などを手伝う機会　も、すべて「人との縁に感き　にする思いを込めた。
に恵まれた。新潟を拠点に全　る」。事務所の名前「アトリ　今年、初めて1人で仕事を
社殿の改築。解体すると建築　技法の特徴から約130年　であることが分かった。手が　けた建築家の息遣いを感じ、　しばしば手が止まった。
古いものを調べて、新しい　ものに生かす。「毎日が勉強　修復したものが少しでも長く　世に残り、いつか『清水に任　せれば間違いない』と言われ　る存在になりたい」。手がけ　た「歴史資産」が更に次の世　代に伝わり、新潟がもっと魅　力的なまちになることを願っ　ている。

【黒田冨紗子】

しみず・とおる　1977年、富山県氷見市生まれ。新潟大学大学院を卒業後、02年7月に建築事務所「アトリエ　縁」を開業。06年に1級建築士の資格を取得した。雪を使ったエネルギーを研究する「雪だるま財団」（上越市）の嘱託研究員や建築専門学校の講師も兼任。郷土史の執筆も手がける。

時けた。新潟港の水先案内に　重要な役割を果たした日和山　（新潟市中央区）の住吉神社

2009年　毎日新聞

数多くの人々の熱意により

日和山 は再生されました

2009年
再生！

日和山
Project



2009年　住吉祭





新潟港の水先案内

「水戸教」発祥地

日和山の整備完了

町歩きスポット 復活

江戸時代から昭和初期まで新潟港の水先案内などの役割を担った「水戸教」発祥の地として知られる日和山（新潟市中央区東堀通13）の整備事業が、このほど完了した。海上の守護神をまつる住吉神社も有志によって再建。生まれ変わった新潟島の町歩きスポットに地域住民から期待が寄せられている。

日和山は港を出入りする船に安全な水路を教える水戸教が天候や船の出入りの観測などを行っていた。役割を終えた後、展望台や歴史を伝える場として保存されてきた。

しかし、草が生い茂るなど荒れていたため、2007年に市と地元住民らが「埋もれた遺産を復興させよう」と整備検討委員会を発足。石碑を移動させて頂上を広くしたり、本殿を50㌢ほど高くしたりするなど約2740万円掛けて整備した。本殿は政教分離の原則で市が整備にかかわれないことから、地元住民らが寄付を募って再建し、今月11日にご神体が再び安置された。

同神社の宮司、久我隆利さん(69)は「地域の方整備された日和山の頂上で地域の歴史を語る住吉神社の宮司、久我隆利さん＝17日、新潟市中央区東堀通13

2009年　新潟日報



2009年　恵比須舞



2009年　大黒舞

18

evolution
2010年

まちあるきの拠点としても
日和山は進化しています



2010年　路地連新潟＋新潟市　発行　新潟下町あるき　日和山登山のしおり



路地連新潟＠野内隆裕

新潟の町の
小路をめぐって
日和山へ！





聞かせて まちづくり

まち歩きで魅力再発見

市民目線で名所紹介

にいがたなじらねっと運営

野内 隆裕さん(42)

繁華街から市場、花柳界、下町まで。新潟市の中心部は約2㎢の間に45本もの小路が通る。住人には当たり前の風景も、見せ方次第では港町の歴史をしのばせる観光資源だ。新潟を「まち歩き」スポットとして売り出す官民連携のキーマンの知恵は――。【黒田阿紗子、写真も】

――なぜ「まち歩き」なのですか。

新潟の街並みは約350年前、信濃川の河口に港を移すため集団移転で計画的につくられました。碁盤の目のように走る小路の名前は、約400軒に大きな家が6軒だけ連なっていた「六軒小路」、小舟を収める倉庫が並んだ「舟蔵小路」など、港町の歴史が凝縮されています。ボランティアで観光ガイドをしていたとき、あまりに小路の数が多いから、分かりにくくて。小路の名前入りのイラストを描いて、電柱や塀に張って

まち歩きの目印「お宝案内」の石碑の前で

2010年　毎日新聞

evolution
2014年

日和山を堪能する 場所も 有志により完成しました





日和山を知る・楽しむ・眺める施設　2014年　開館

日和山にちなんだグッズも登場！
日和山方角石せんべい





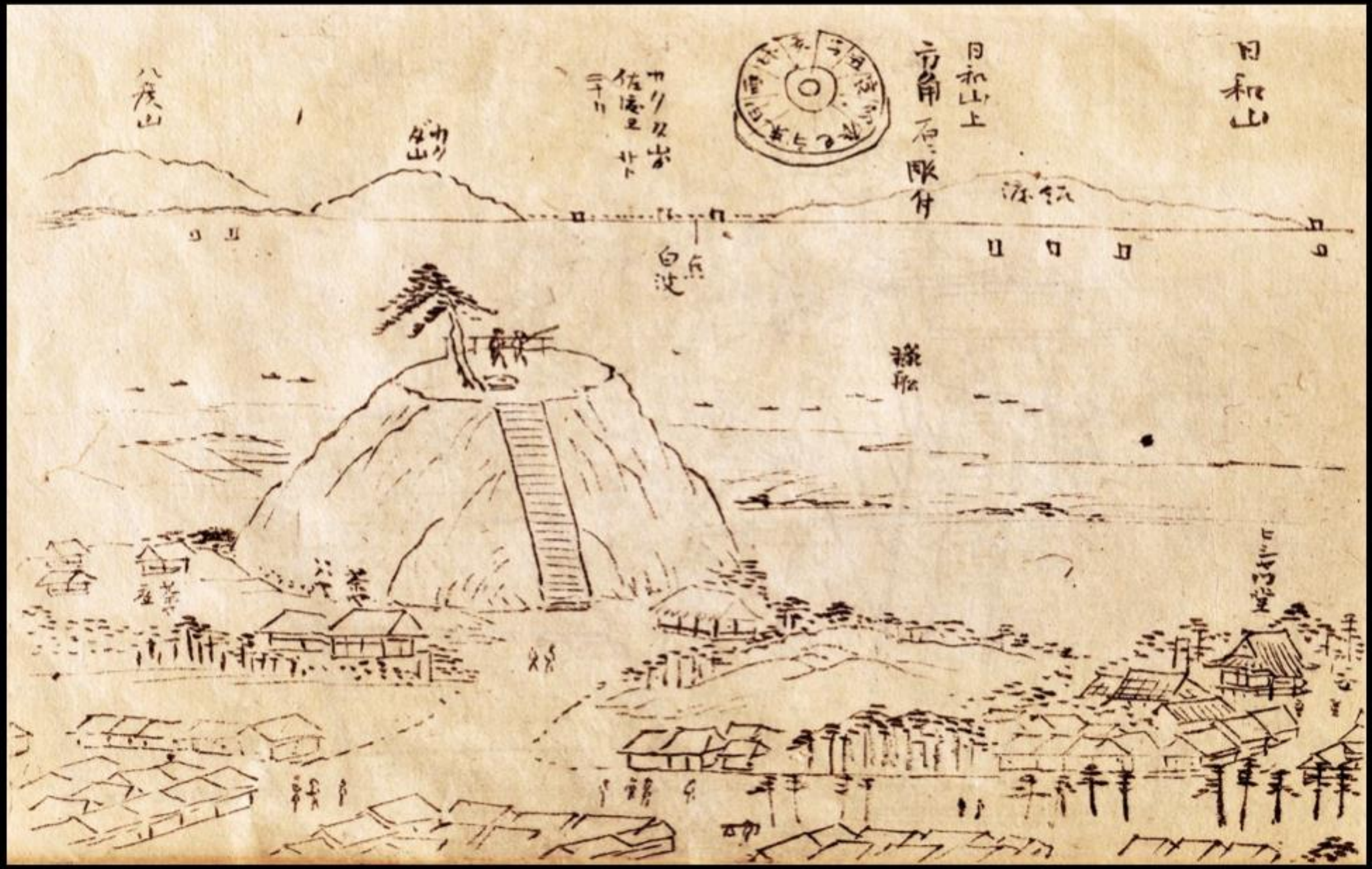
日和山からの景観を損なわない設計
まちあるきで日和山に訪れた人々をもてなす場



日和山から
みなとまち新潟を
楽しもう！



路地連新潟　野内隆裕



北国一覧写出羽越後　天保2年(1831)



大正時代の日和山



２００２年の日和山



２００９年　日和山　整備開始



２０１０年の日和山



現在の日和山





日和山五合目　2014~2020　2025~再開





日和山五合目





日和山五合目　東京世田谷　堀口珈琲





日和山五合目　東京世田谷　堀口珈琲



日和山方角石せんべい



長谷川雪旦せんべい

20

evolution
2014年

これからも 日和山の物語は
進化し続けて ゆくでしょう



日和山
Project

みなとまち・新潟 日和山

進化する 日和山物語

日和山委員会
＋
新潟市



GOOD DESIGN AWARD 2014

みなとまち新潟・日和山　進化する 日和山 物語

地域のお宝を
後世へ継承

認定証書

新潟の町・沼垂の町・小路めぐり

本市の活性化のために
継承すべき地域の宝として
新潟市民文化遺産に認定します

認定番号：2014中央001
種　　別：有　　形
推薦団体：路地連新潟　様

平成27年2月12日

新潟市長　篠田　昭

地域のお宝を
後世へ継承

認定証書

みなとまち新潟　日和山

本市の活性化のために
継承すべき地域の宝として
新潟市民文化遺産に認定します

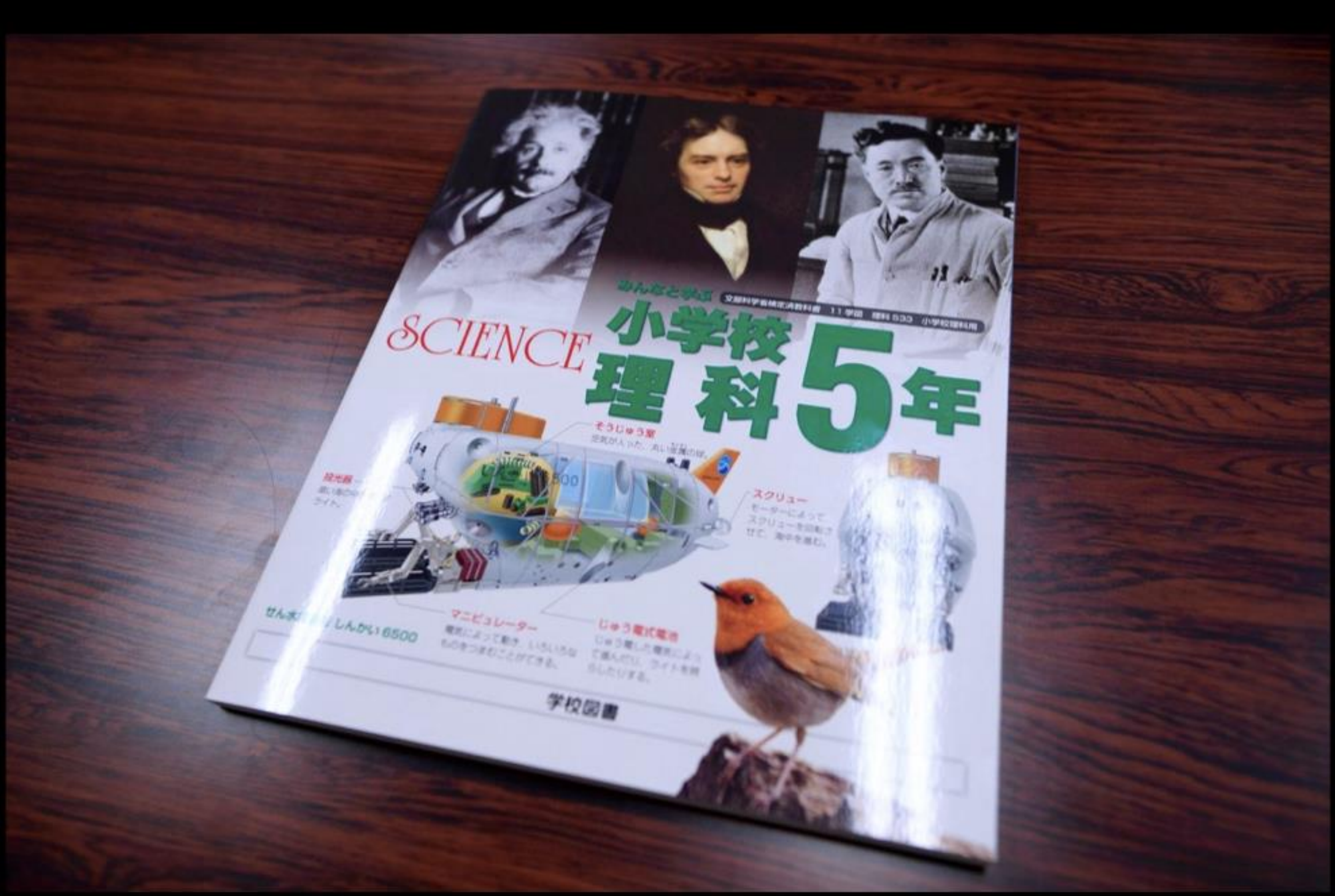
認定番号：2014中央002
種　　別：有　　形
推薦団体：路地連新潟　様

平成27年2月12日

新潟市長　篠田　昭



２０１５年　新潟市民 文化遺産　認定



平成２６年度(2014)　五年生　理科　(学校図書)

雲の様子から、その後の天気を予想できるか。

まとめ

雲の量と天気の変化には関係があります。現在見える雲の動きや様子から、ある程度、その後の天気を予想することができます。

読み物

日和山（ひよりやま）

現在のように天気予報などなかった昔、人びとは雲などを観察して天気を予想していました。日和山は、日本各地にあり、船乗りが出船できるかどうかを決める際、日和を見る（天気を予想する）ために、その地いきの人びとが利用した山です。



新潟県新潟市に残る日和山



日和山にある方位を示す石



約180年前の日和山の様子（北国一覧）





平成２６年度(2014)　五年生　理科　(学校図書)

読み物

日和山（ひよりやま）

現在のように天気予報などなかった昔，人びとは雲などを観察して天気を予想していました。日和山は，日本各地にあり，船乗りが出船できるかどうかを決める際，日和を見る（天気を予想する）ためにその地いきの人びとが利用した山です。



新潟県新潟市に残る日和山

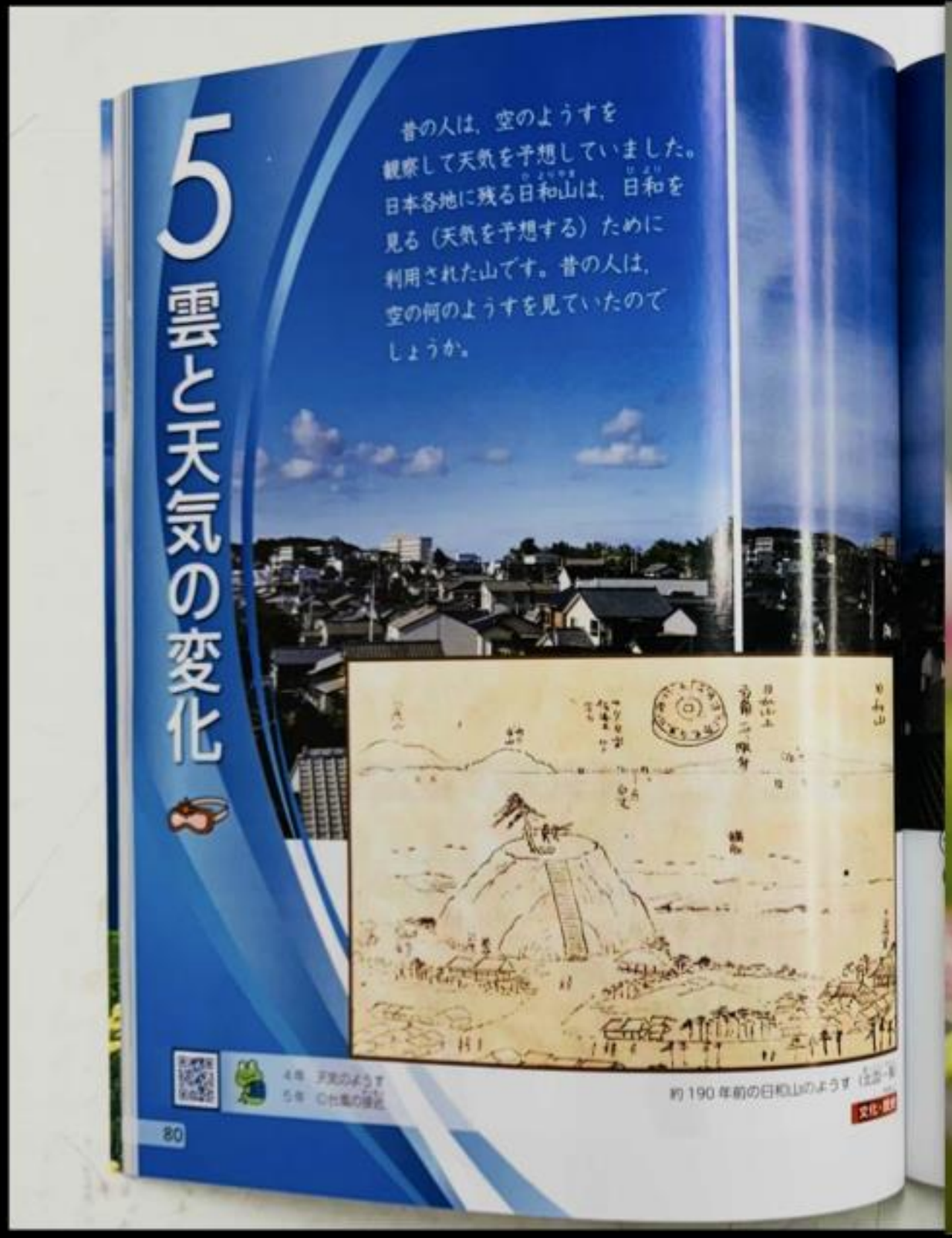


日和山にある方位を示す石



約180年前の日和山

平成２８年度(2016)　五年生　理科（学校図書）

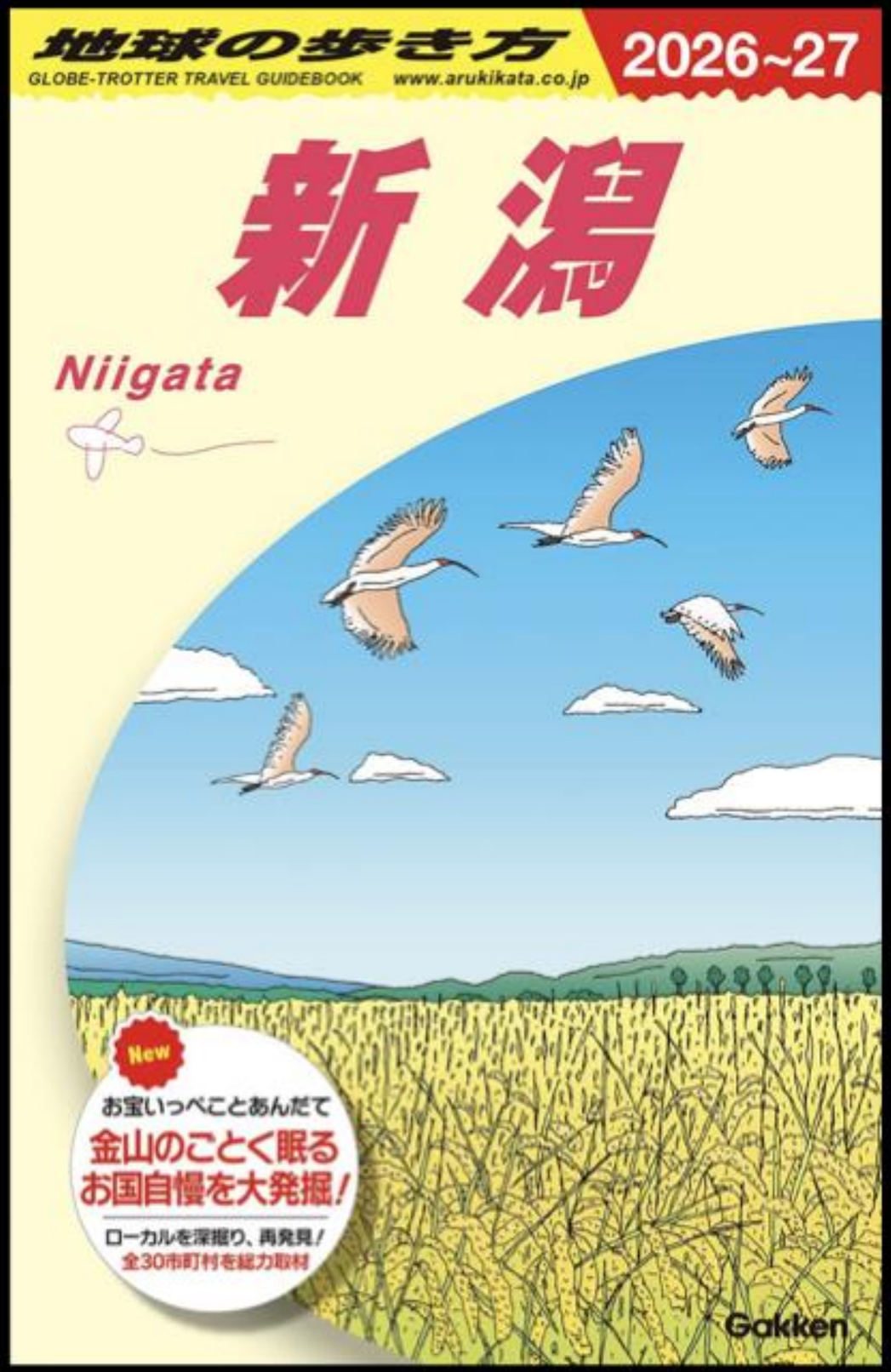


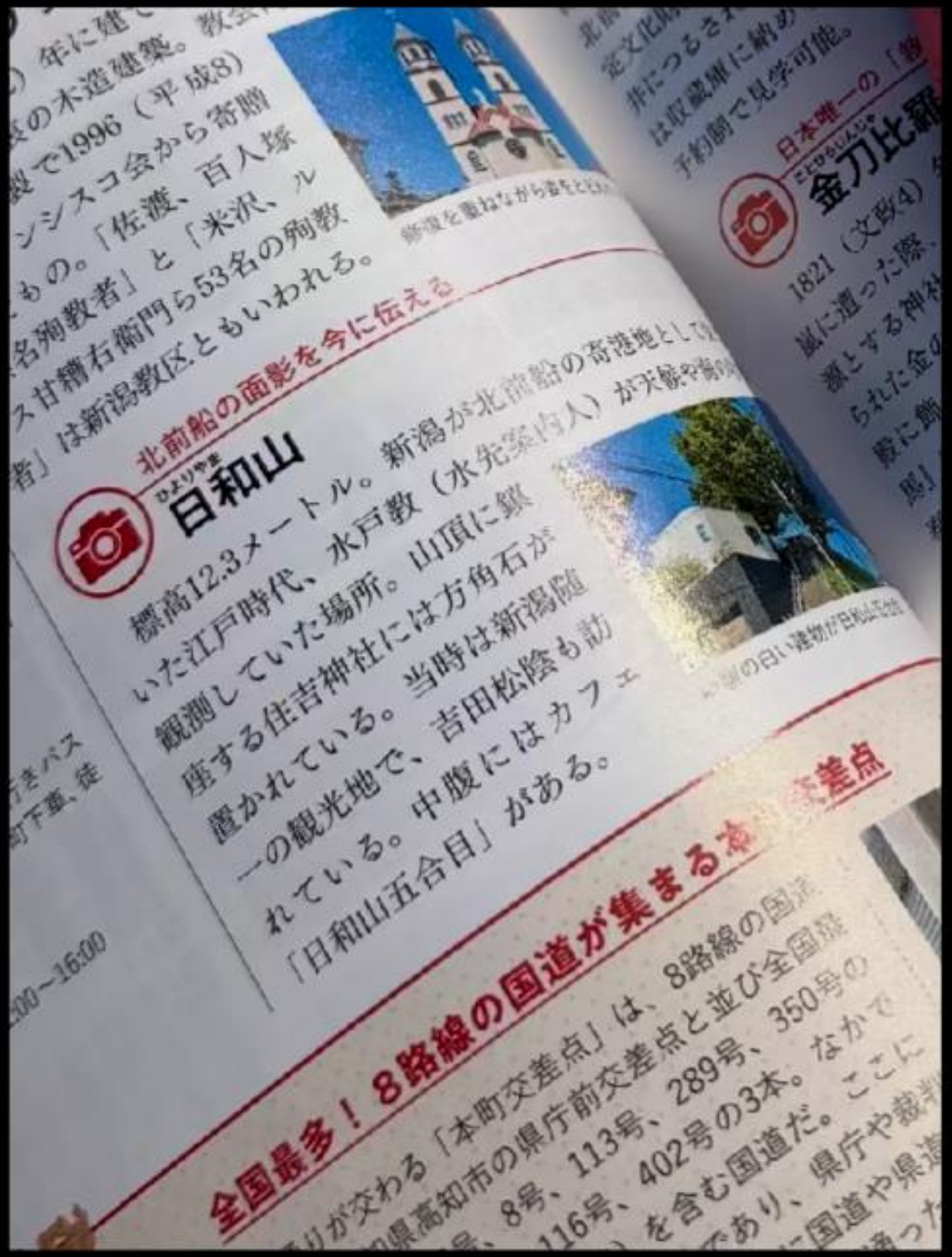


令和５年度(2023)　五年生　理科（学校図書）


るるぶ
新潟
佐渡
最新版!
新潟タウン
村上
越後湯沢
魚沼・十日町
上越・妙高高原
新潟タウン&プランニングMAP
新潟ドライブBOOK&便利ガイド
お宝グルメ大発見
寿司
海鮮丼
日本酒
コシヒカリ
新潟ラーメン
今年は
NGT48
現美新幹線
日和山
西海岸
古町・本町
カミフル
万代シテイ
新潟駅周辺
昔ながらの街並に個性的な店が混在!
カミフル
「カミフル」とは、白山神社の参道から続く約500mの間に100店舗ほどが軒を連ねる上古町商店街の愛称。
体験から買い物まで、エキナカ施設が充実!
新潟駅周辺

日和山エリア





2026年　地球の歩き方　新潟

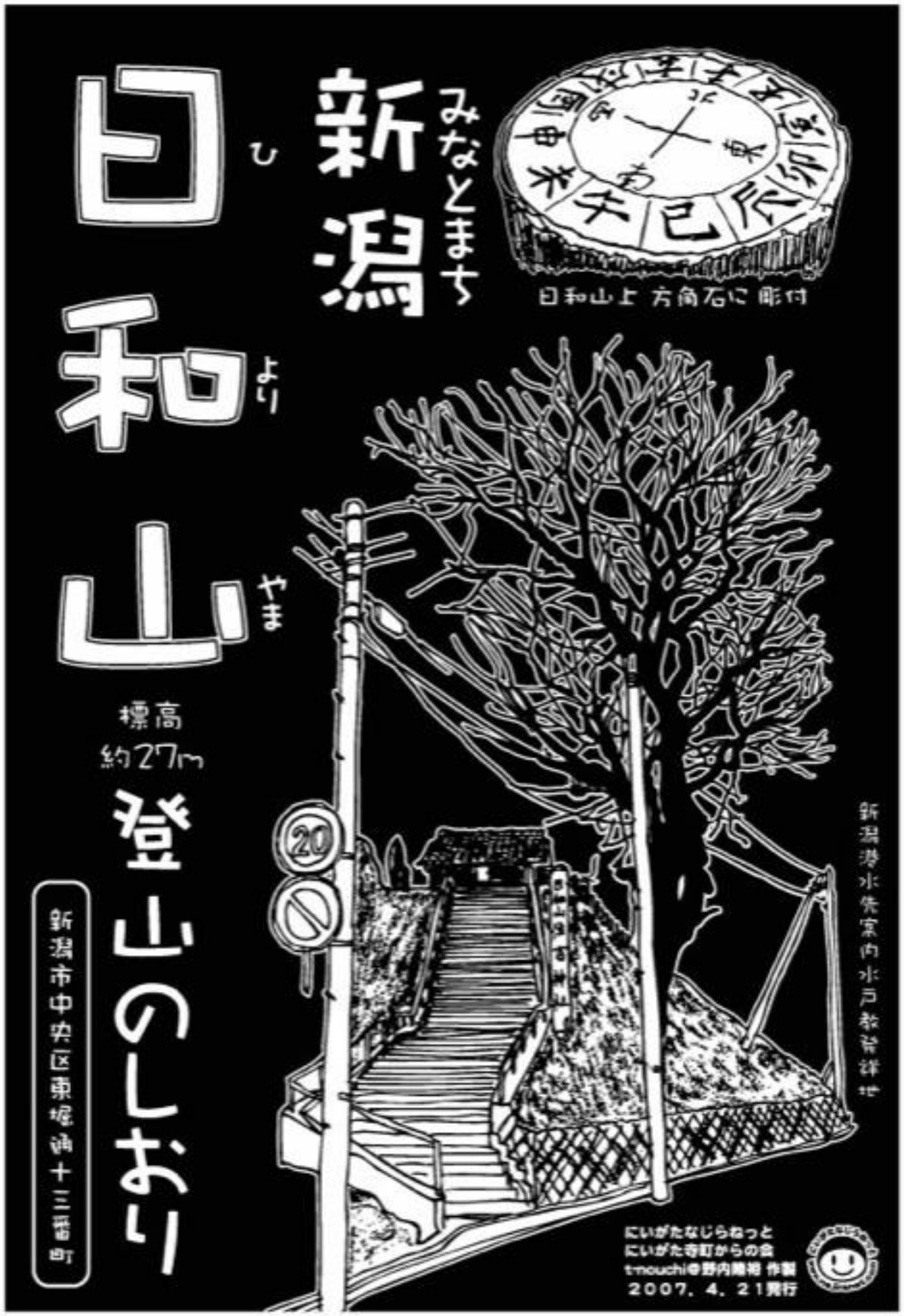


1997年～

日和山を



まちあるきで案内



2007年

日和山

登山のしおり



2009年

日和山

整備完了



2009年

日和山案内板

整備完了



2010年

日和山

登山のしおり



2014年

日和山五合目

建設・開店



2014年～

理科の教科書

掲載



2025年～

日和山五合目

そこそこ繁盛



新潟の日和山



各地の方々との交流の場に





各地の方々との交流の場に





各地の方々との交流の場に





各地の方々との交流の場に



新潟の日和山

北前船と日和山

南波松太郎

なんば　まつたろう

明治27年　平成7年

1894～1995

大阪市生まれ



ものと人間の文化史６０

日和山

南波松太郎

法政大学出版



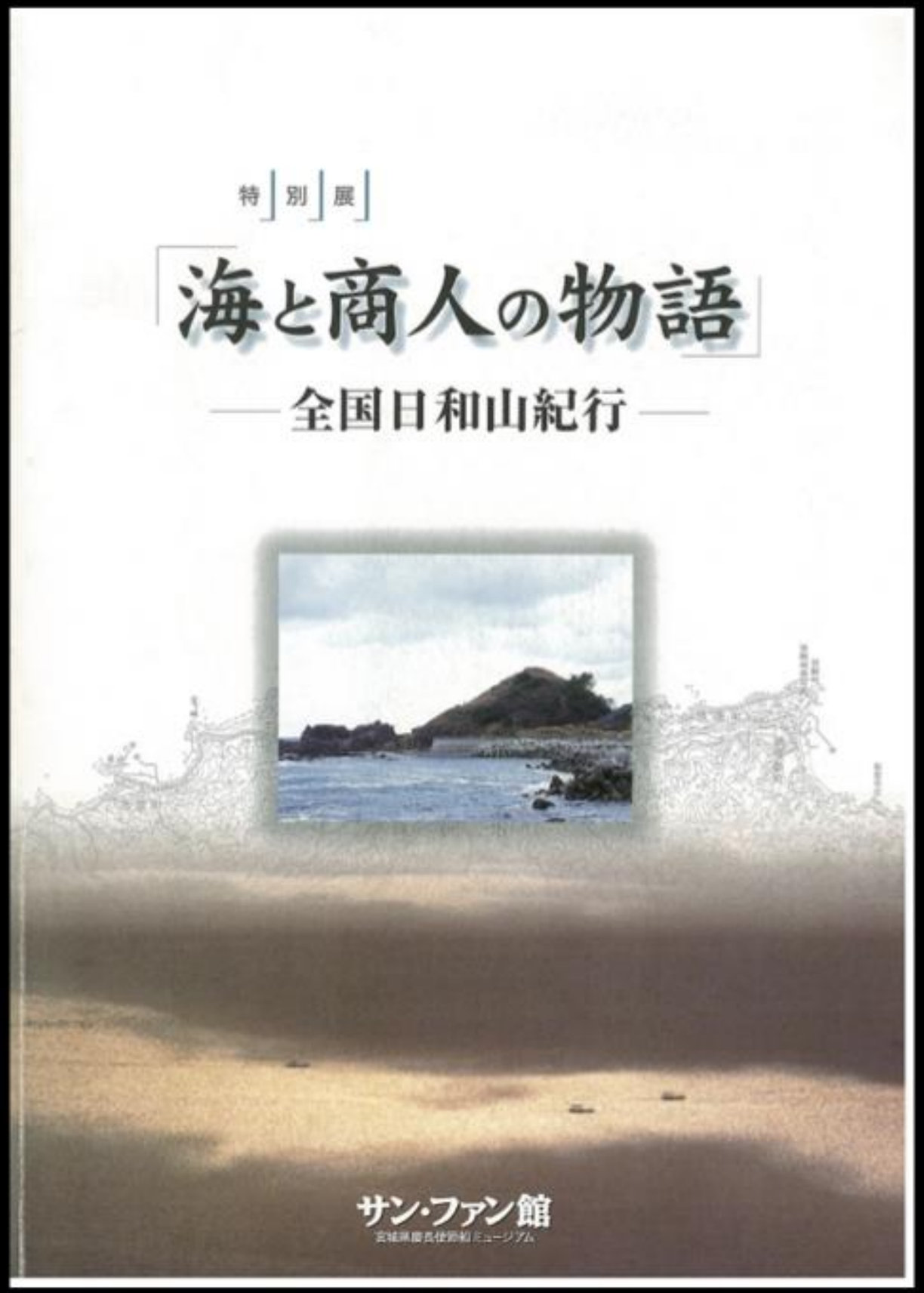
海と商人の物語

全国日和山紀行

サンファン館

宮城県
慶長使節船ミュージアム

特別展1998～1999



但馬・廻船史話

安本恭二さん

平成１１年～平成13年

日本海新聞 たじま広報版 連載

平成13年(2001)発行

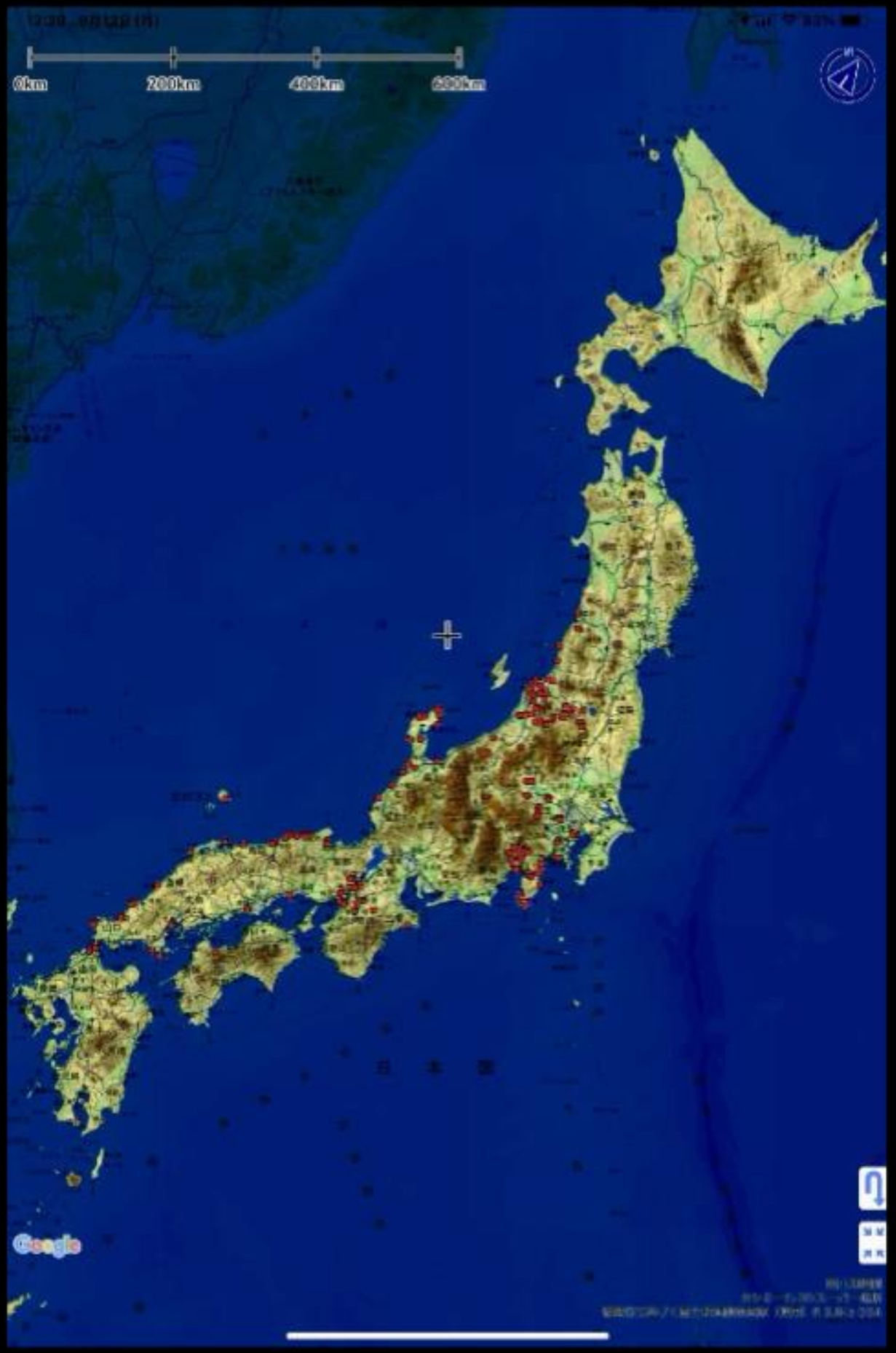
日和山のこと

日和山の発掘
(新たに一ヶ所確認)



日和山

めぐり







北海道

小樽　日和山

2023年6月



北海道

松前　法華寺　方角石

2023年6月

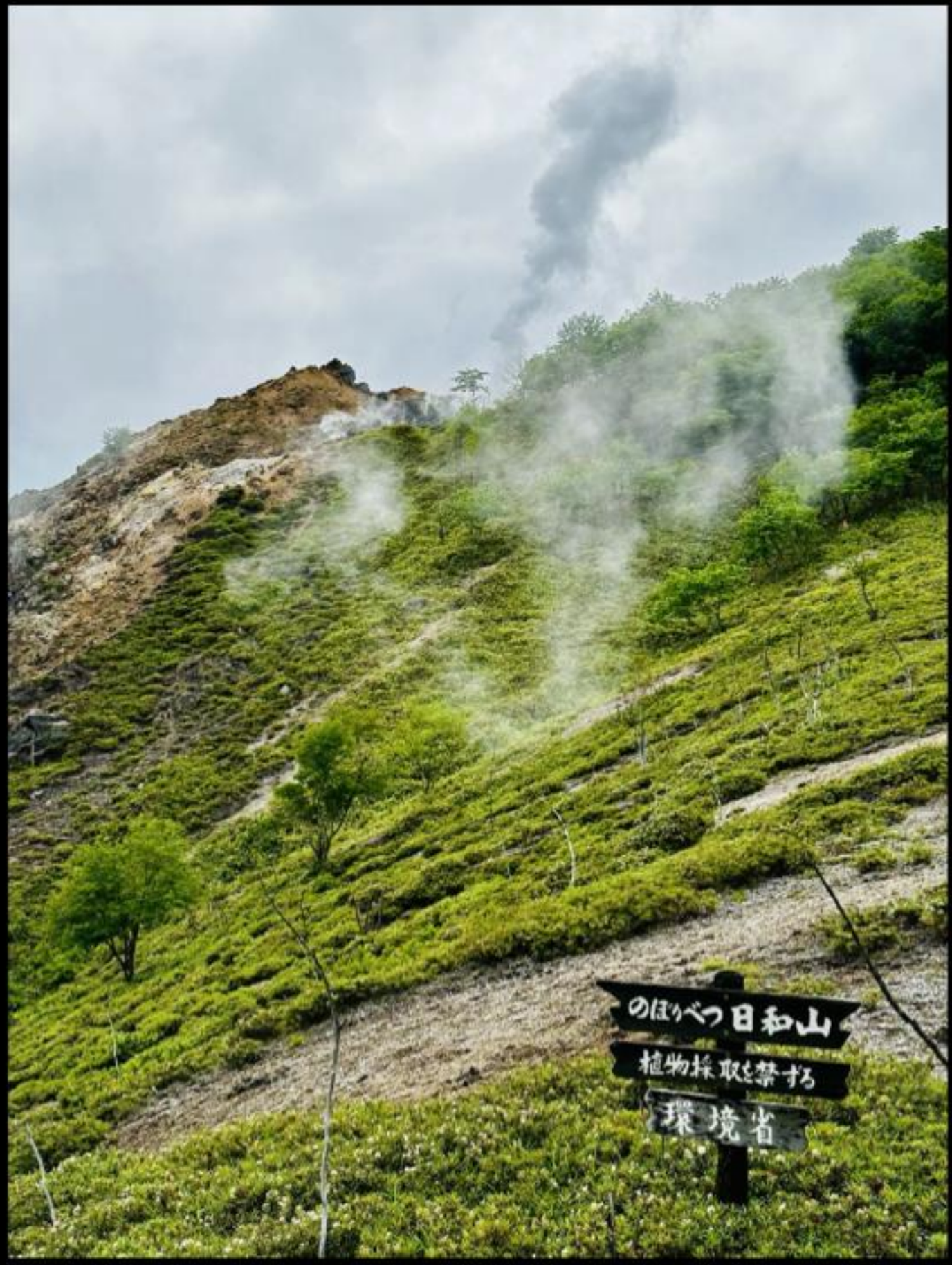




北海道

登別　日和山

2023年6月







北海道

留萌　日和山

2026年6月



秋田県　能代市

能代湊・日和山

２０１９年５月





山形県　酒田市

酒田港・日和山

２０１６年９月







石川県　輪島市

輪島港・日和山

２０２２年５月

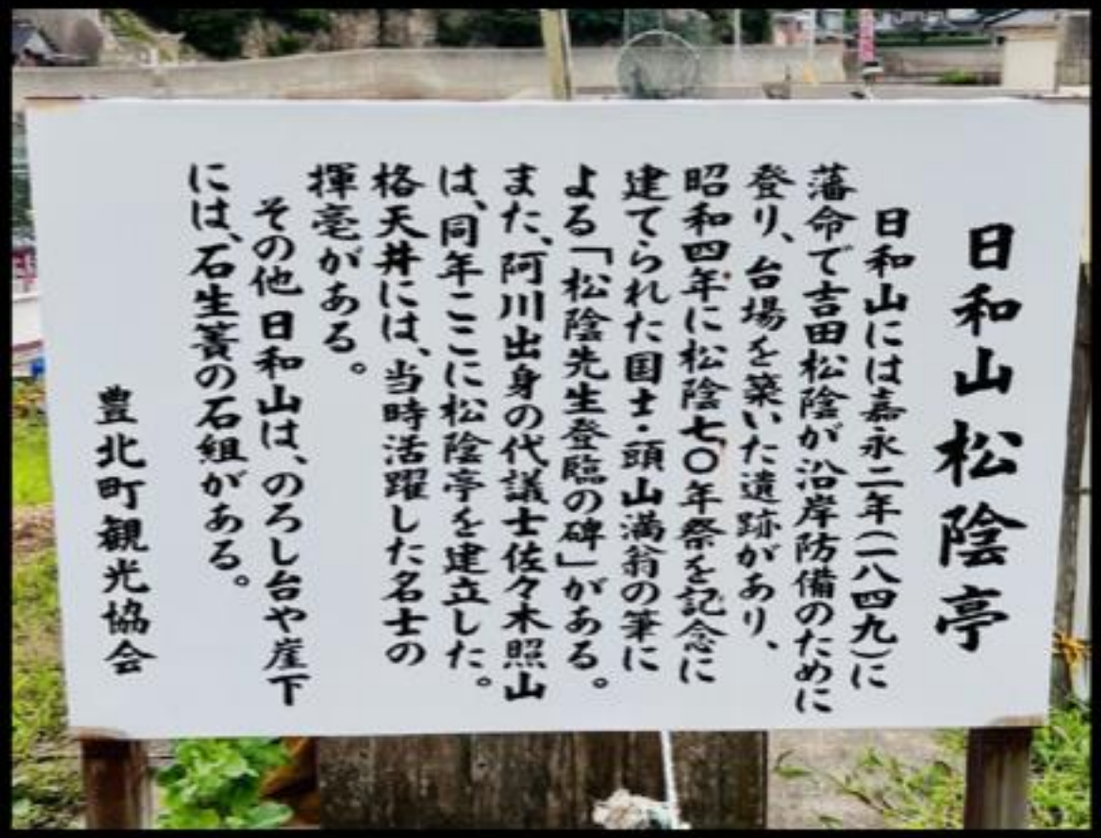


石川県

輪島前神社・方角石

享和４年（1804）





山口県　阿川港

日和山

２０２２年９月





山口県　室津港

日和山

２０２２年９月





三重県

志摩市　民俗資料館

大的矢 小的矢 方角石

文政5年（1822）

２０２３年５月

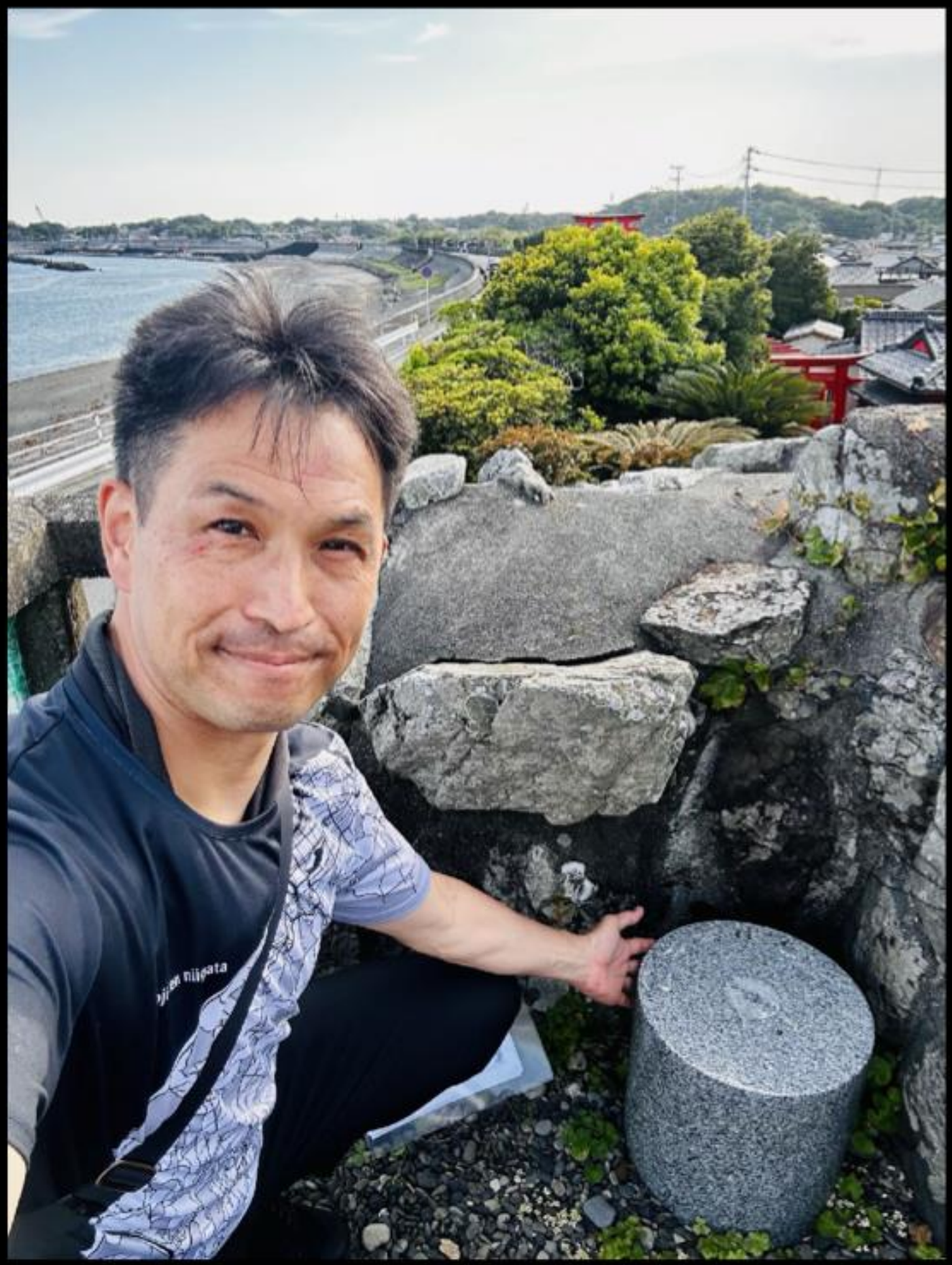




三重県

片田　日和山　方角石

２０２３年５月





三重県

鳥羽港　日和山　方角石

２０２３年５月





静岡県

子浦港・日和山

2018年9月



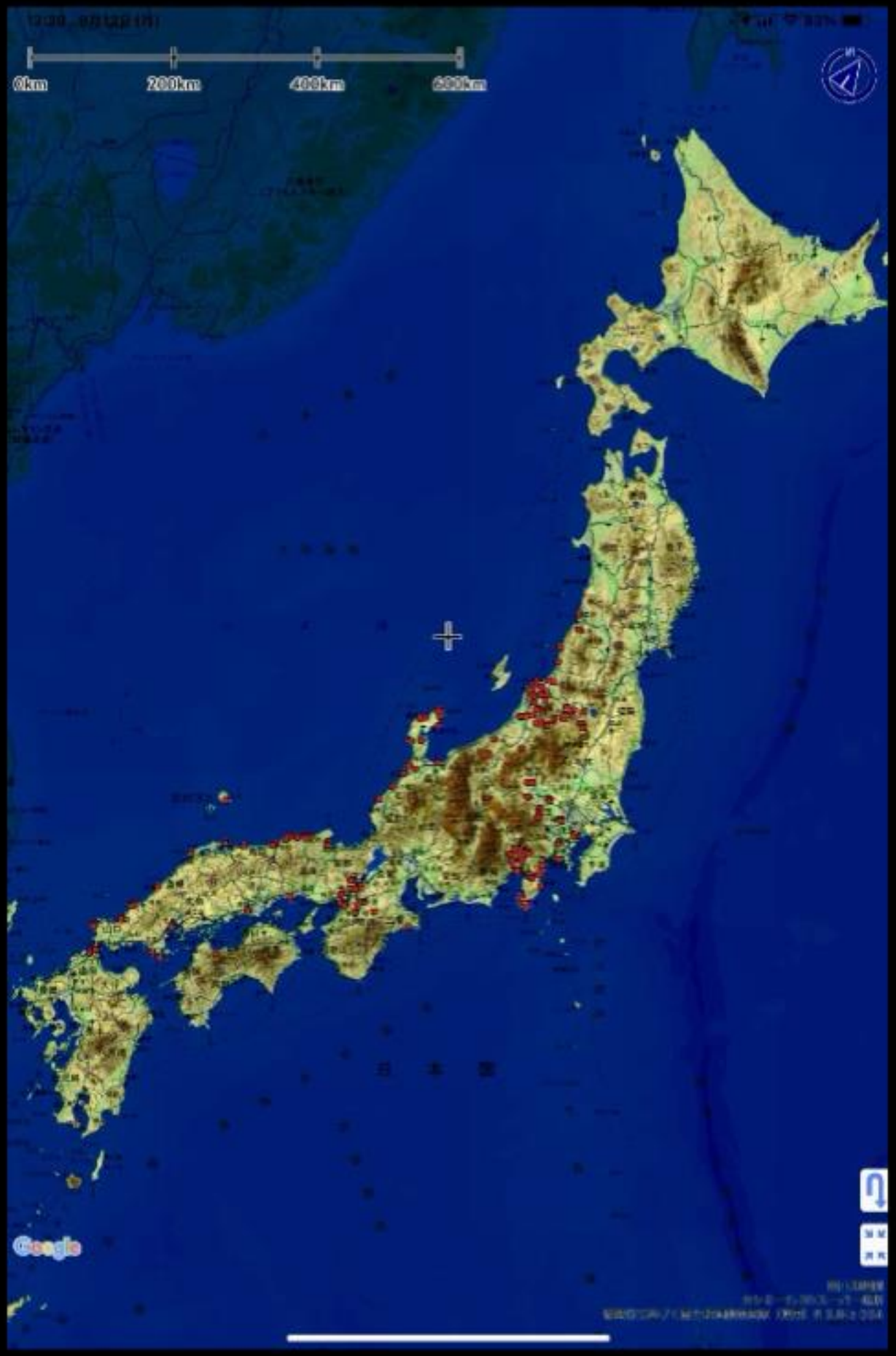


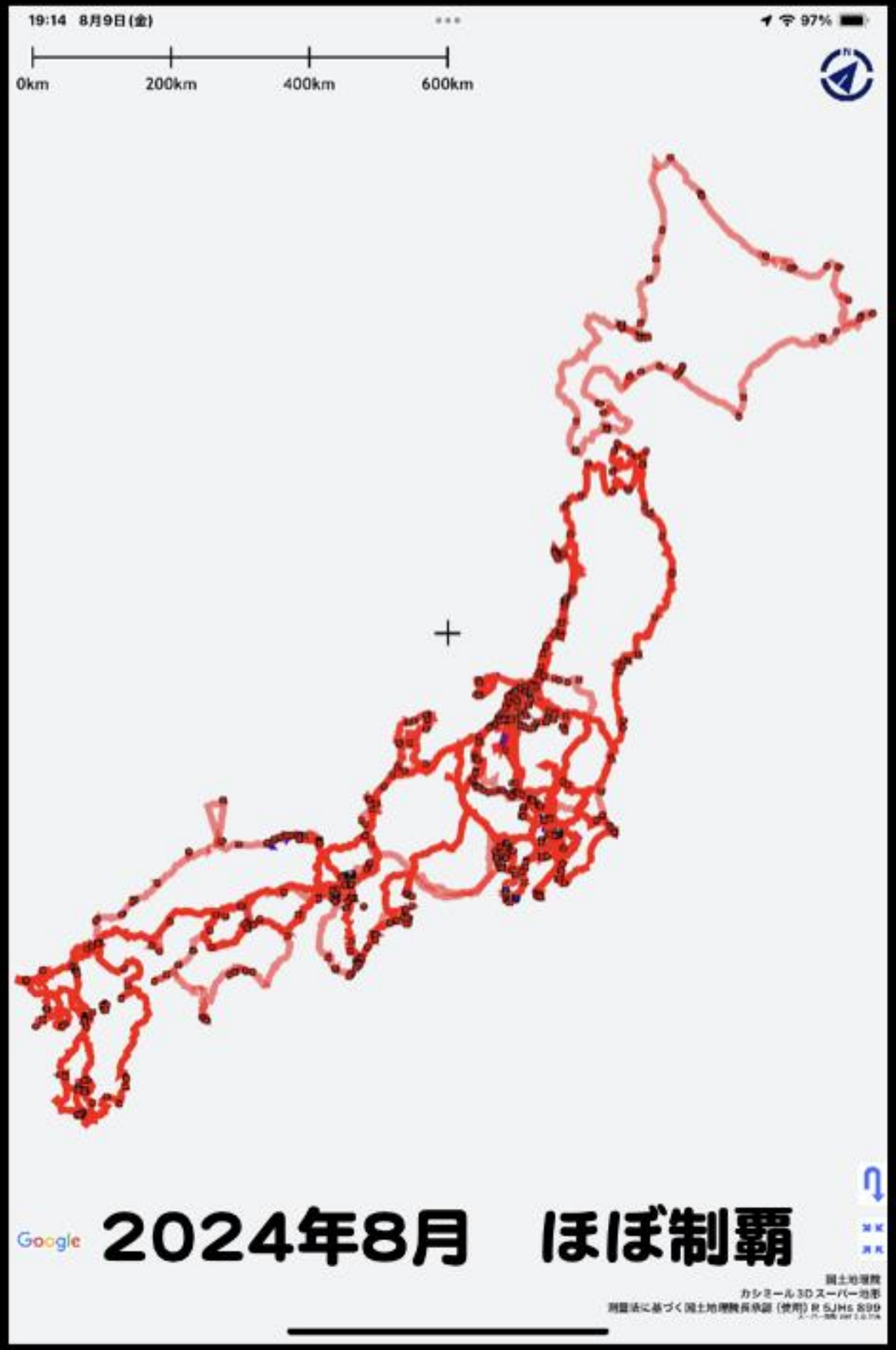
静岡県

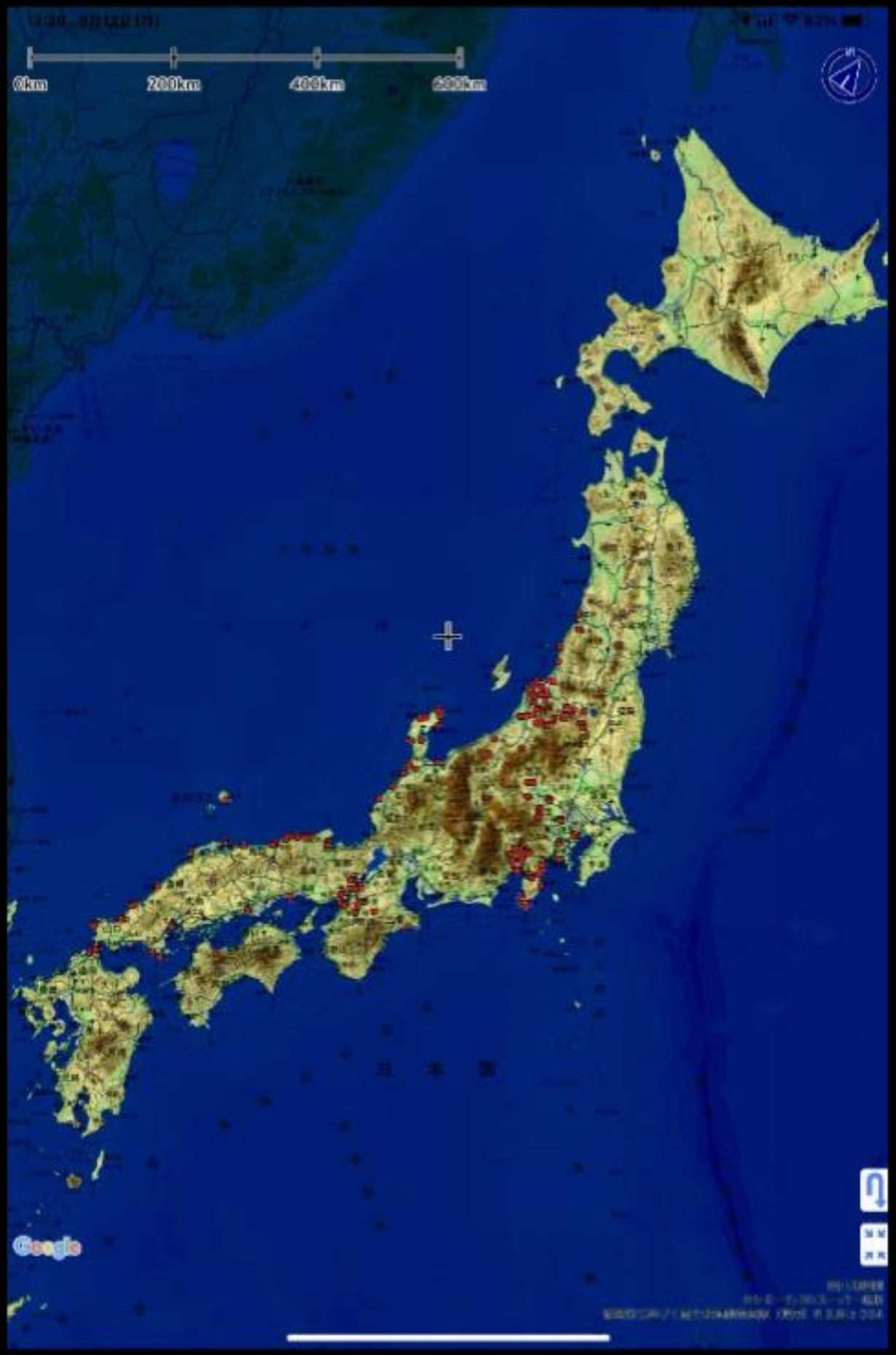
吉佐美・日和山

2026年7月




0km
2000km
4000km
6000km
Google


19:14 8月9日(金)
97%
0km
200km
400km
600km
Google
2024年8月　ほぼ制覇
国土地理院
カシミール3D スーパー地形
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 899


0km
200km
400km
600km
Google

2025年現在　確認した　各地の方角石　５０個


北海道　江差


北海道　松前


北海道　松前


北海道　箱館


北海道　箱館


北海道　箱館


北海道　苫小牧


北海道　浜中町


秋田　象潟


秋田　象潟


秋田　にかほ


秋田　にかほ


秋田　にかほ


秋田　にかほ


秋田　能代


青森　八戸


福井県　坂井


福井県　坂井


石川県　福浦


石川県　能登


石川県　能登


新潟　弥彦


新潟


新潟　瀬波


兵庫　竹野浜


兵庫　瀬戸


岡山　倉敷


北九州　若松


山口　伊崎


山口　高山


山口　江崎


山形　酒田


三重　大的矢


三重　大小的矢


三重　鳥羽


三重　鳥羽


三重　神島


愛知　羽豆


鳥取　浜田


宮城　塩風沢島

三重　大的矢

三重　小的矢

三重　片田

静岡　妻良

静岡　妻良

静岡　子浦

東京　式根島

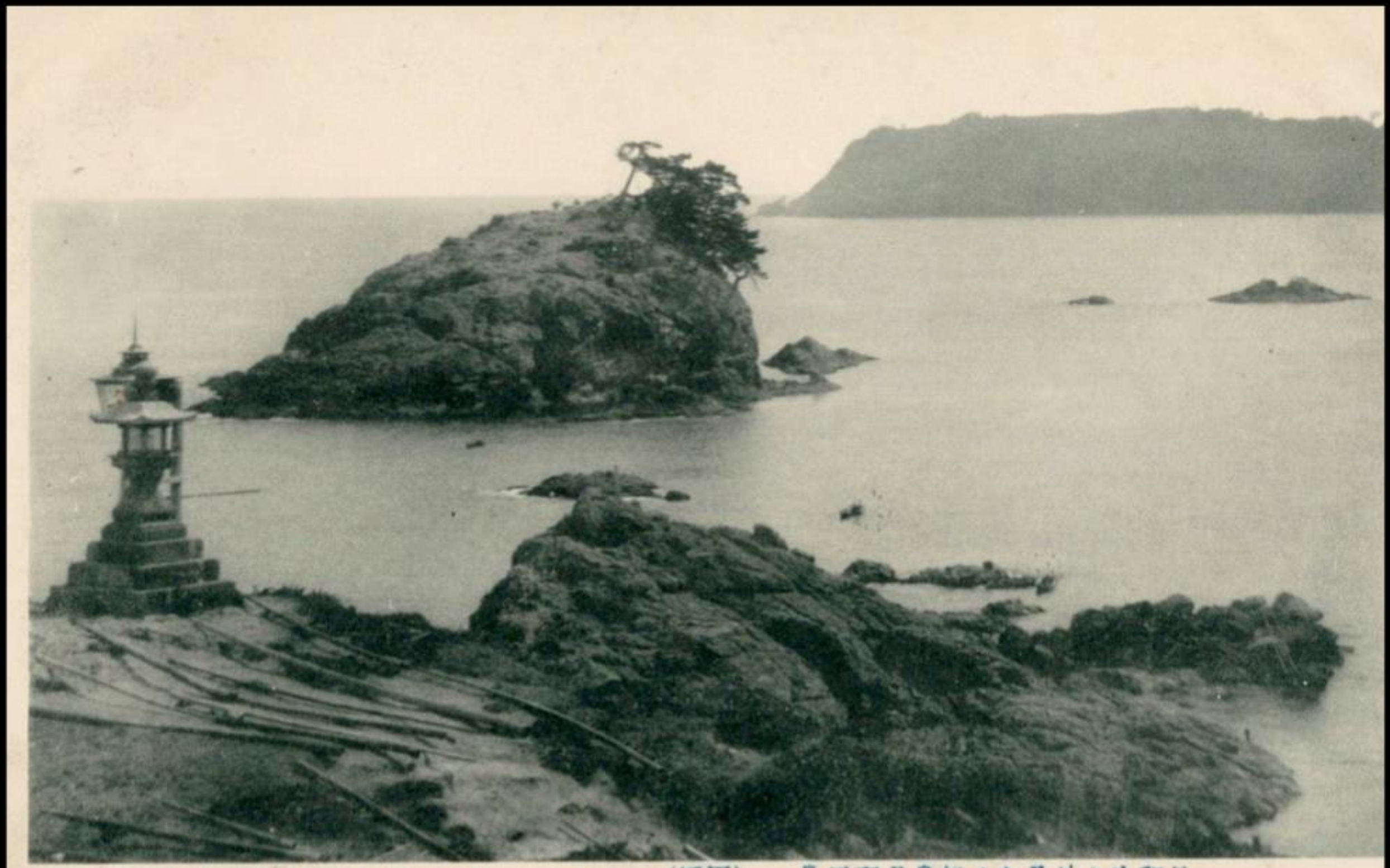
宮城　塩風沢島

まだまだ、日和山めぐり



〔五其〕　場浴水海橋天小　〔濱濱美久〕

京都府　久美浜　小天橋　日和山



THE MATHUSHIMA LOOK OUT AT THE HIYORI MT　（輻因）　日和山より見たる松島及羽尾鼻

鳥取県　田後港　日和山

THE DISTANT VIEW OF MT. NACHI COMMANDED
FROM ON MT. HIYORI, KATSUURA.

紀伊勝浦温泉旅館　越之湯

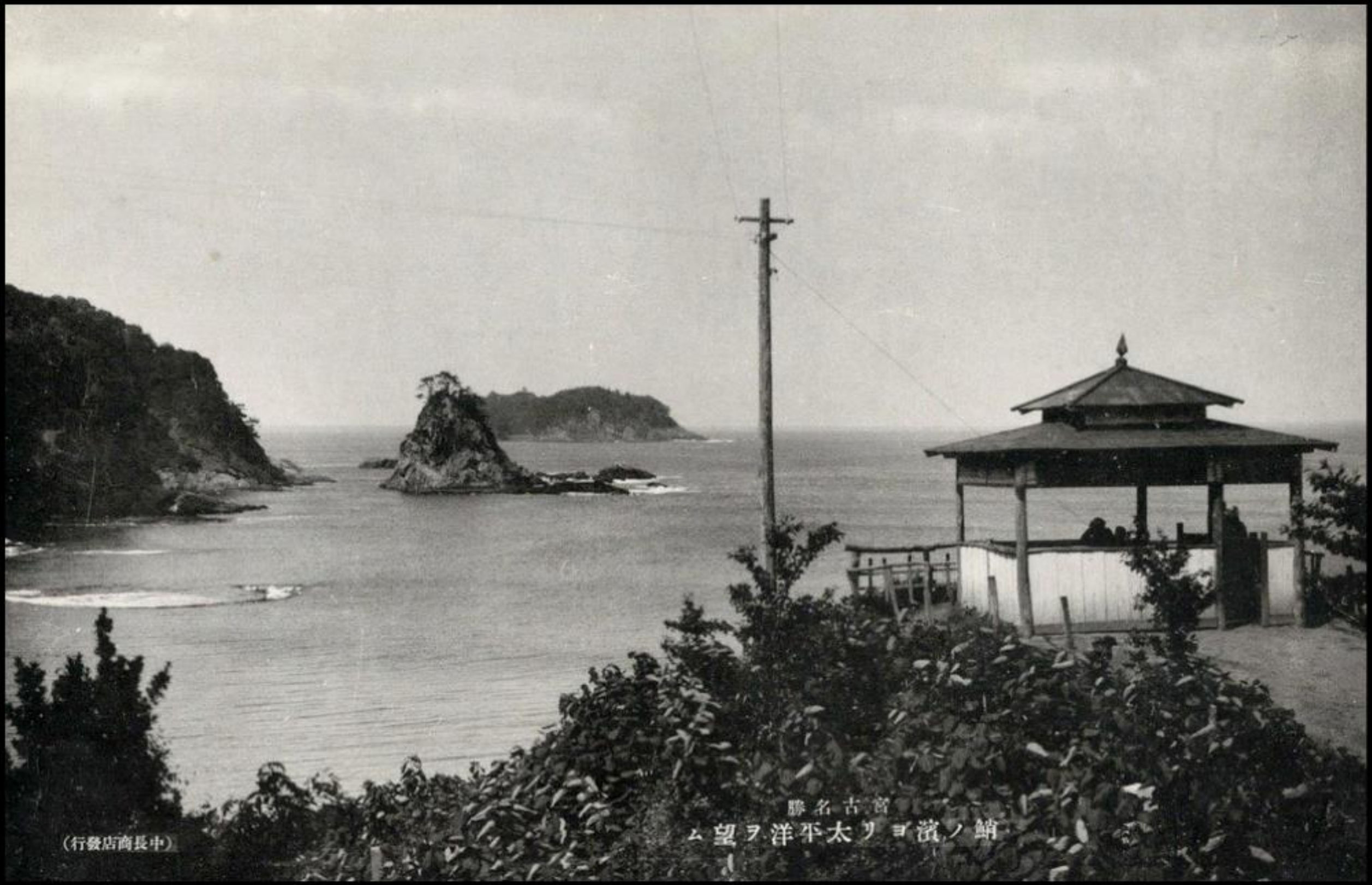
遊園地日和山より那智山遠望

和歌山県　那智勝浦　日和山



内海日和山ヨリ西海岸ヲ望ム　（愛知縣）

愛知県　内海港　日和山



岩手　宮古港　日和山

日和山の旅は

まだまだ続く、、、のか














五助小路

roji-ren niigata

GOOD DESIGN
路地連新潟
roji-ren niigata

令和８年度北前船日本遺産オンラインセミナー

瀬戸内海芸予諸島の
灯台・航路標識と北前船



尾道市企画財政部文化振興課









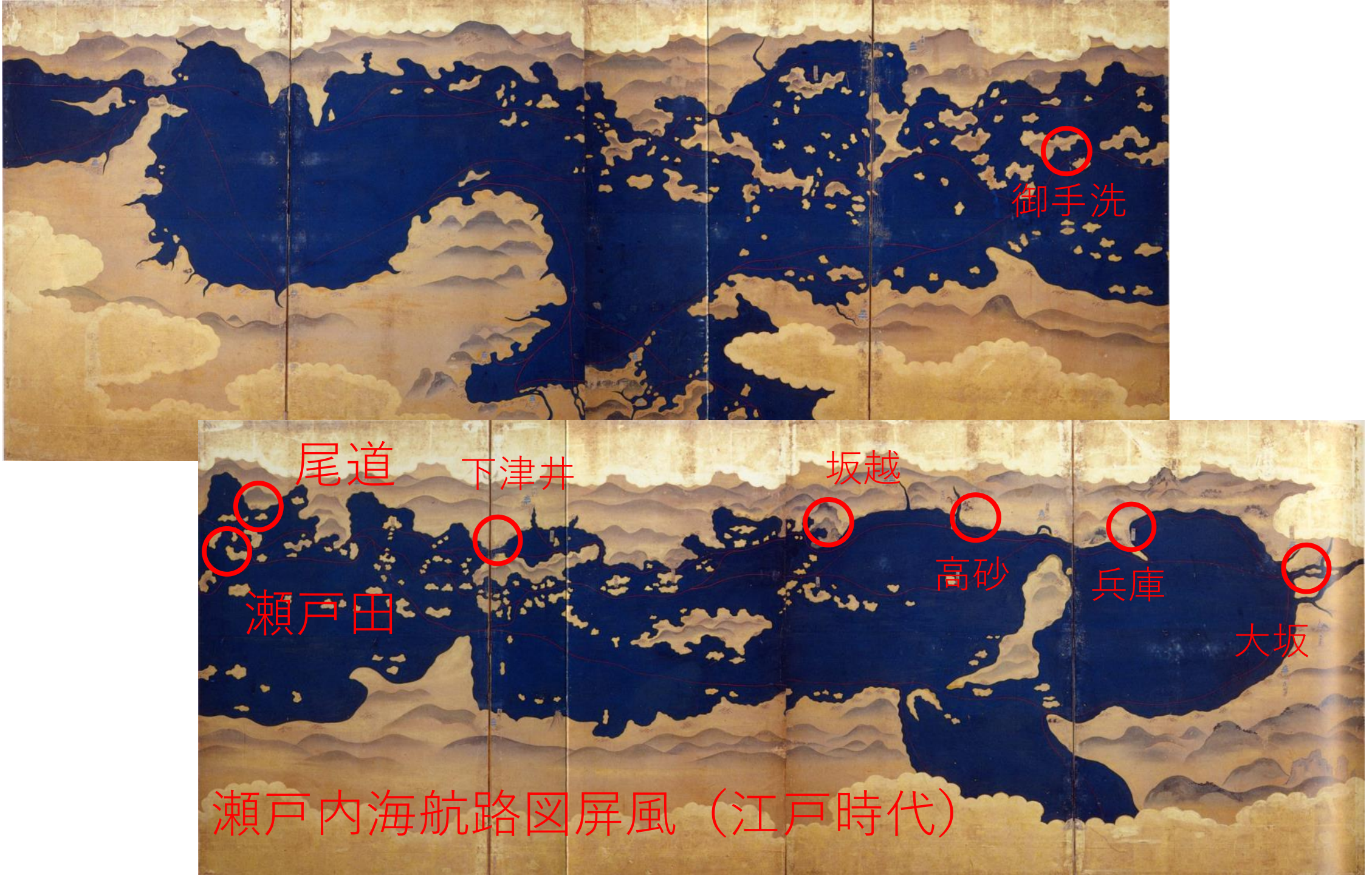
瀬戸内の港町の特徴

- 風待ち潮待ちの港町
- 半島先端の入江（対岸に島）
- 島々の港町（対岸に島）
- 地乗り・沖乗り航路



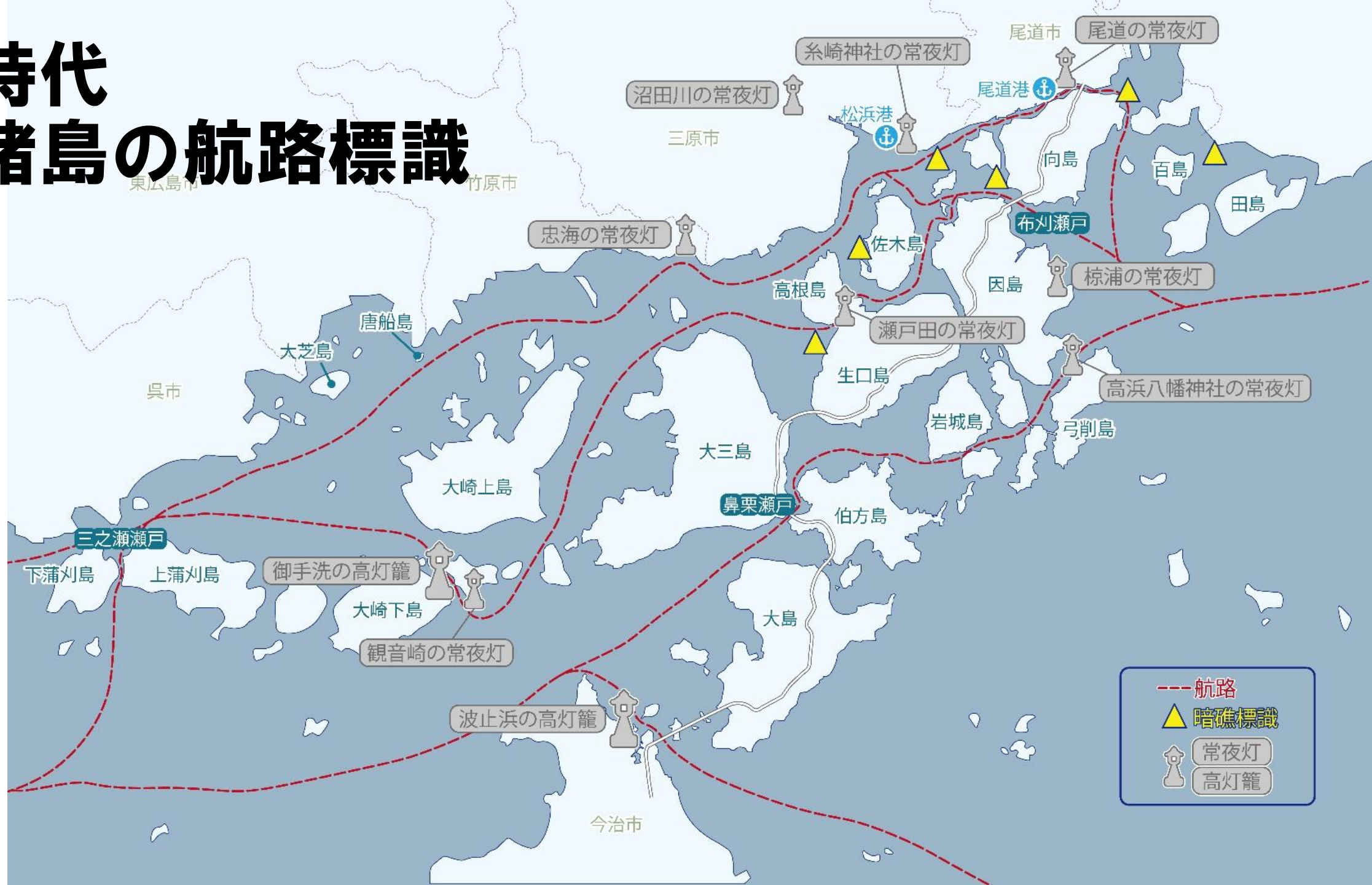






瀬戸内海航路図屏風（江戸時代）

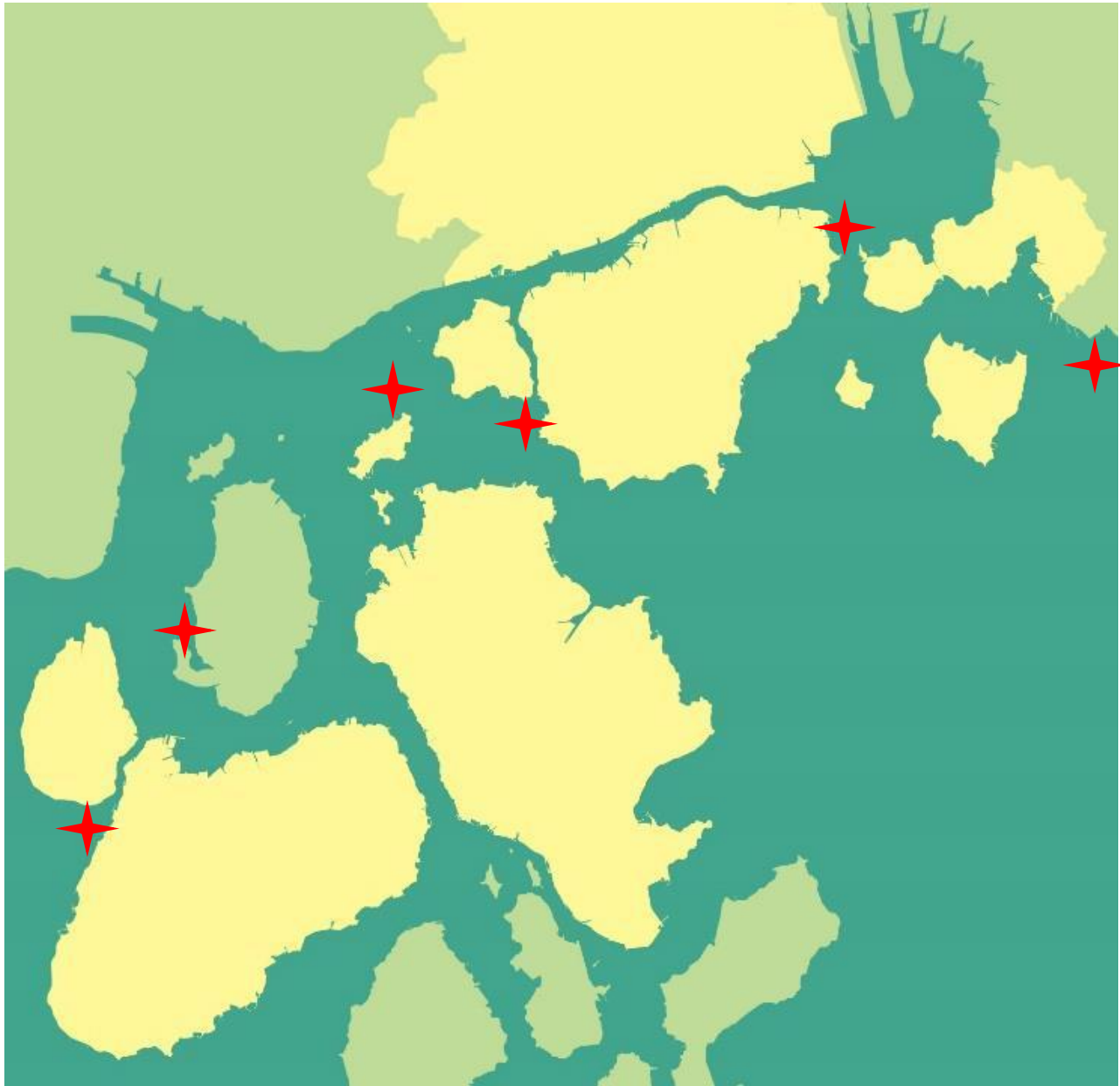
江戸時代
芸予諸島の航路標識



山路右衛門七(機谷)による暗礁標識設置

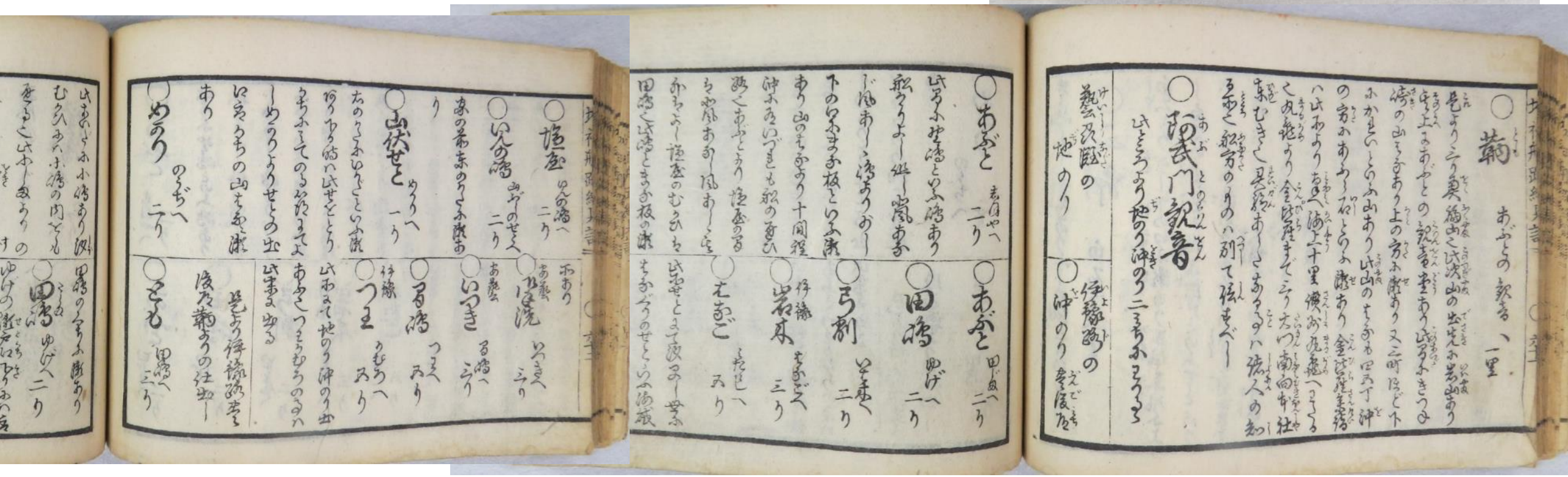
- 沼隈郡藤江村の庄屋
  『沼隈郡誌』（大正12年）
- 近海の暗礁にコップを伏たる如き石塁を築き～

嘉永元年（1848）	沼隈郡千年村字常石沖
嘉永元年（1848）	沼隈郡千年村阿伏兎沖
嘉永２年（1849）	佐伯郡宮島沖
嘉永２年（1849）	御調郡向島大磯沖歌浦
嘉永３年（1850）	沼隈郡百島村沖細
嘉永４年（1851）	豊田郡瀬戸田エンプ
嘉永５年（1852）	御調郡向島西村岩子島向粒田
嘉永５年（1852）	鞆津四郎三郎
嘉永６年（1853）	豊田郡向田
嘉永６年（1853）	田島沖



増補大日本船路細見記（明治６年）
広島県立文書館蔵





江戸時代　芸予諸島の常夜灯

尾道（1797年）

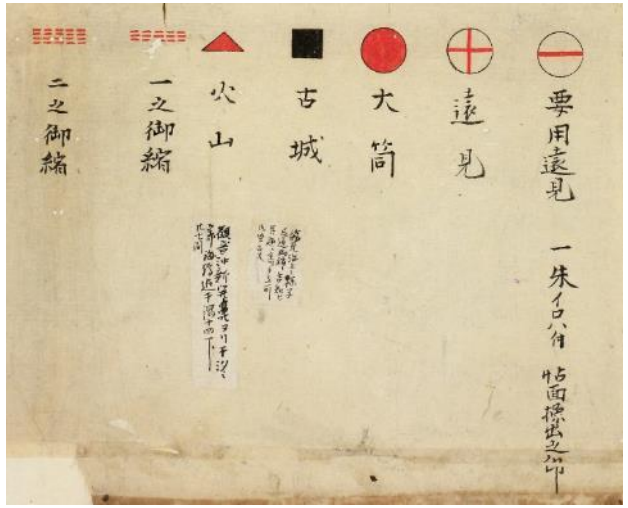


椋浦（1805年）



瀬戸田（1814年）







広島藩海防絵図（文化12年）
広島県立文書館　木村恒旧蔵文書

高見山から備後灘



船往来状之事（慶應元年）
尾道市蔵　宮地家文書

船往来状之事

芸州領備後国御調郡
三庄村為三郎船
沖合船員
理吉

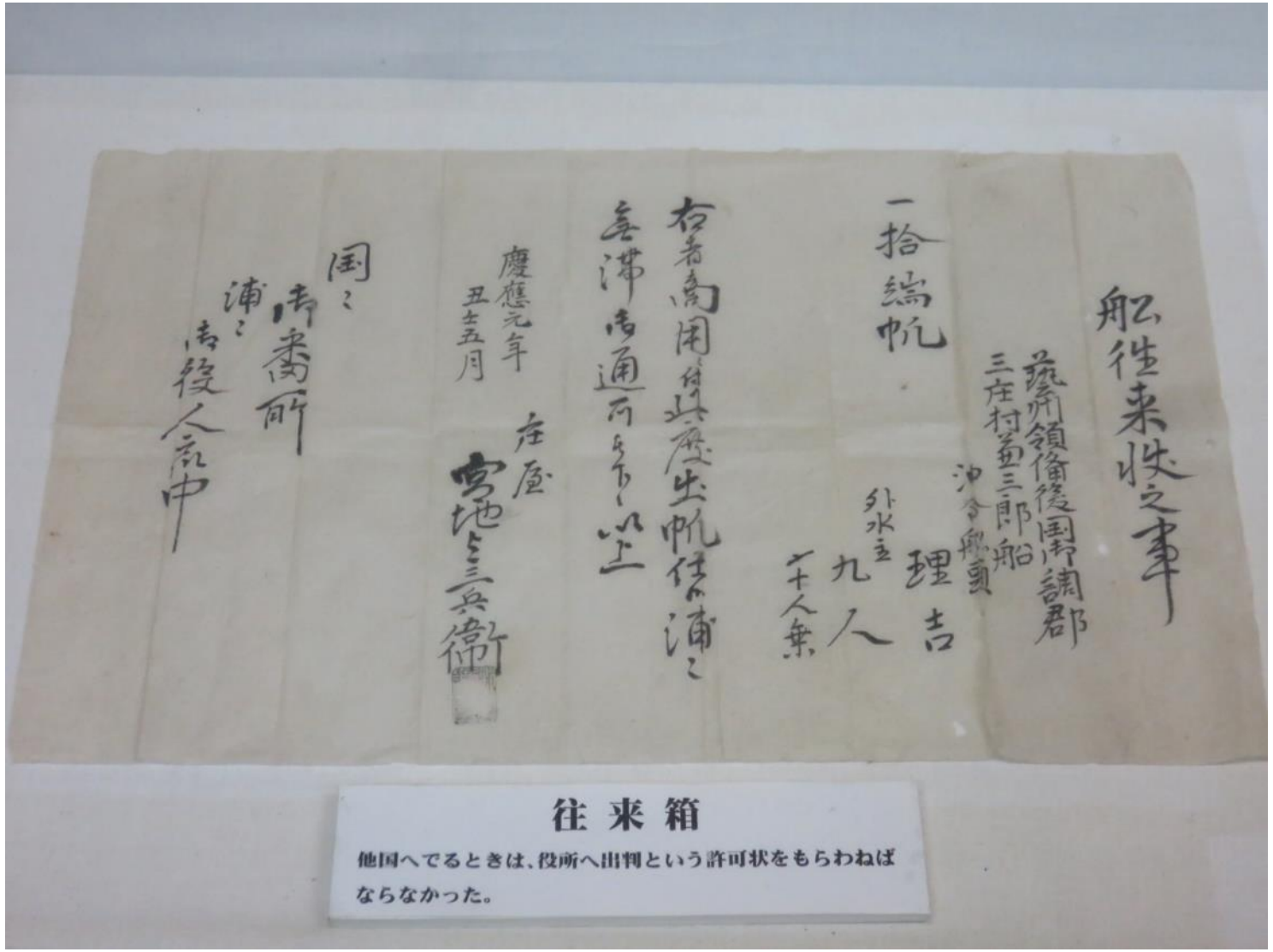
一拾端帆

外水主
九人
〆十人乗

右者商用に付此度出帆仕候浦々
無滞御通可被下候以上

慶應元年
丑壬五月
庄屋
宮地与三兵衛

国々
御番所
浦々
御役人中



明治時代
芸予諸島の航路標識



なぜ、130年前に芸予諸島三原～布刈瀬戸航路に灯台は設置されたのか？

大浜埼灯台



百貫島灯台
（尾道海上保安部提供）



三原～布刈瀬戸への灯台設置の背景

明治24年（1891年）　山陽鉄道が尾道まで開通。
明治26年（1893年）　日本初国際定期遠洋航路　神戸ーボンベイ
明治26年（1893年）　尾道ー新居浜航路が住友家により開設
明治27年（1894年）　国際情勢緊迫化、戦争
明治27年（1894年）　大浜埼灯台など8灯台設置、同時点灯
明治28年（1895年）　住友家の尾道会議　住友銀行尾道支店　開設
明治30年（1897年）　尾道ー今治航路開設
明治30年（1897年）　芸予要塞設置（大久野島・小島）









撮影　栗山主税氏


小佐木島灯台
大浜埼灯台

明治43年(1910）三原瀬戸～布刈瀬戸の大浜埼と高根島に通航潮流信号所を設置・稼働

官報

通航潮流信号所　新設ノ事由

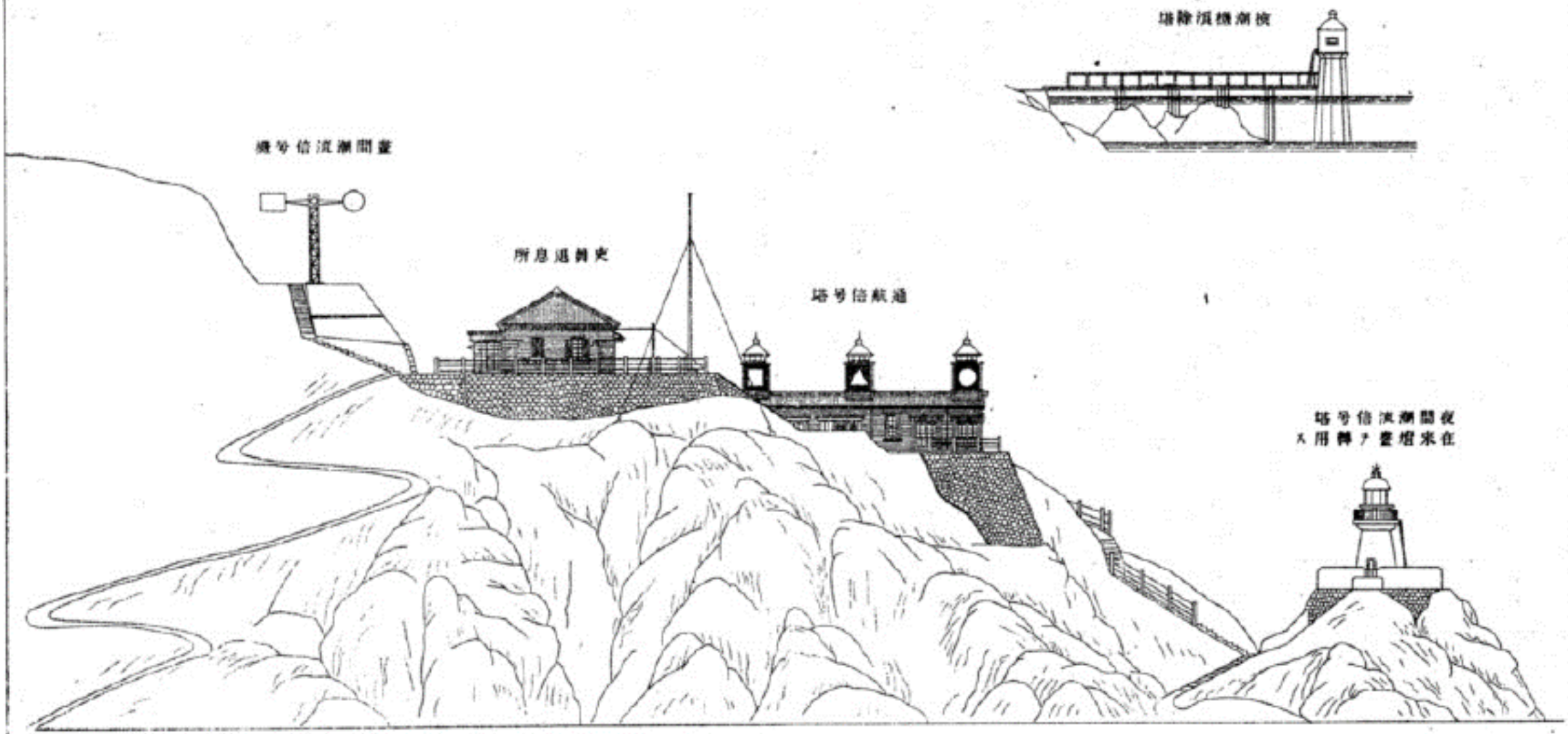
下関海峡及三原瀬戸並びに来島海峡航路は屈曲狭にして潮流甚だ急なるにも拘わらず大小船舶の交通は年々其数を増加するの趨勢なるを以て随いて衝突座礁等の危険少なしとせず是等通航船に対し前路の安否と潮流の方向緩急を予知せしむるは航路の安事を維持する緊要設備なるを認め、四十年度より四十に年度に至る三ヵ年度の継続工事として四十一年五月其工を起こし、四十三年三月を以て全部竣工せり

- 下関海峡　赤坂通航信号所
  台場鼻通航潮流信号所
  火ノ山下通航信号所並びに検潮器浪除塔及潮流観測用挂燈浮標
  部埼通航潮流信号所
  下関及び門司方面電話線架設
- 来島海峡　中渡島潮流信号所並びに検潮器浪除塔及潮流観測用挂燈浮標
- 三原瀬戸　高根島通航潮流信号所
  大浜埼通航潮流信号所並びに検潮器浪除塔及潮流観測用挂燈浮標
  高根島因島方面電話線架設

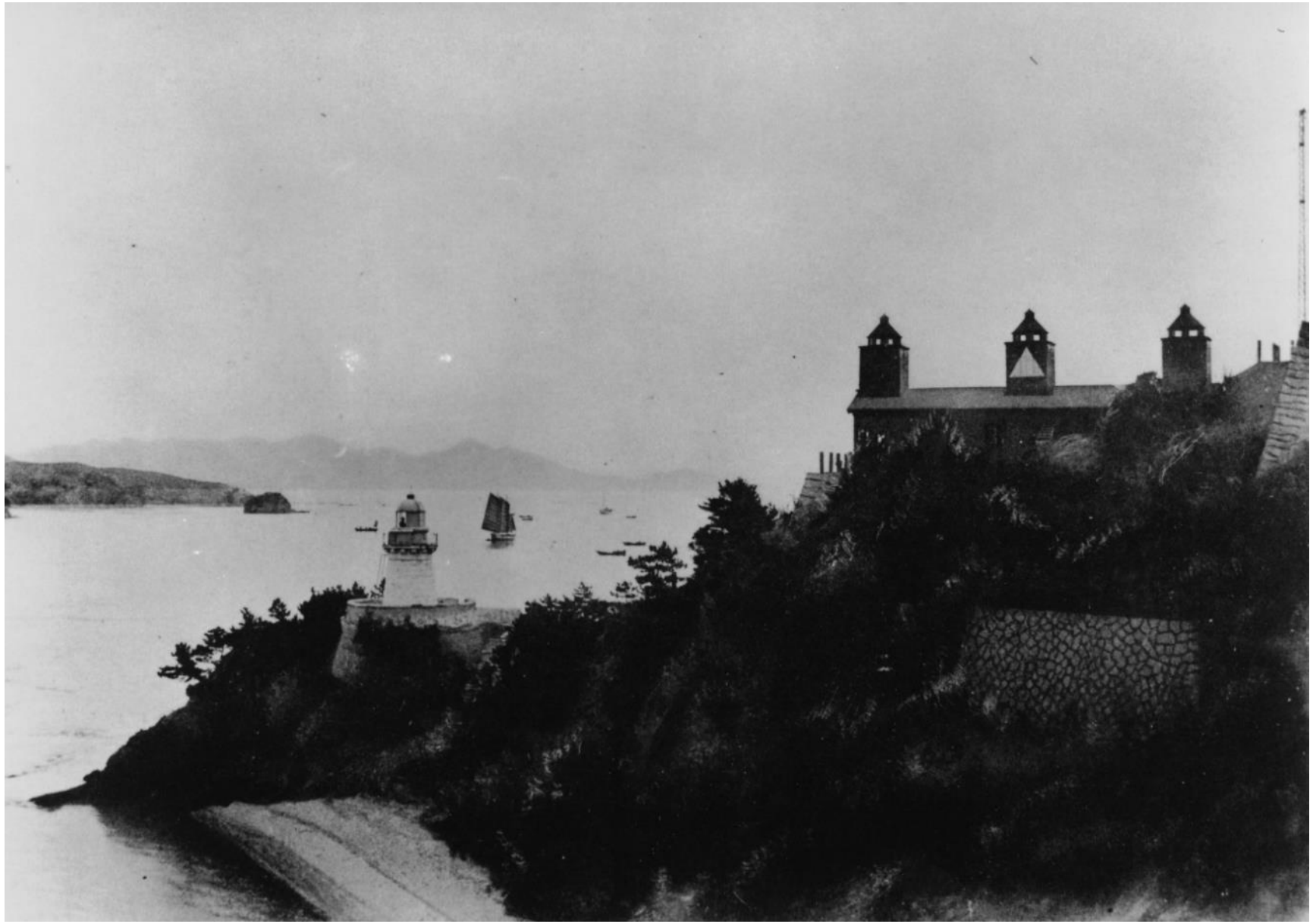


撮影　栗山主税氏

大濱埼通航信號所及檢潮驗浪除塔之圖



通航信号塔（昭和５年頃）

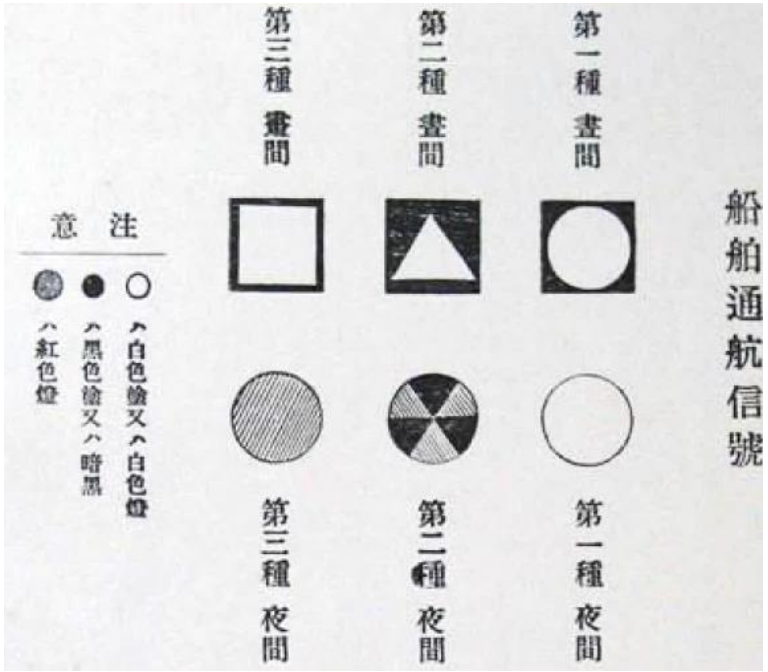




画像提供 郵政博物館

通航信号塔（昭和５年頃）



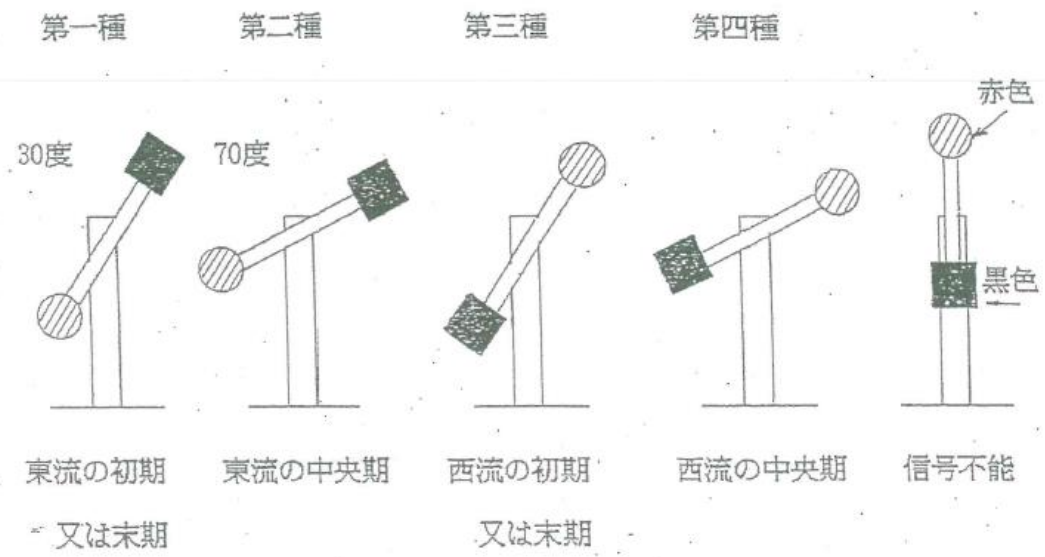


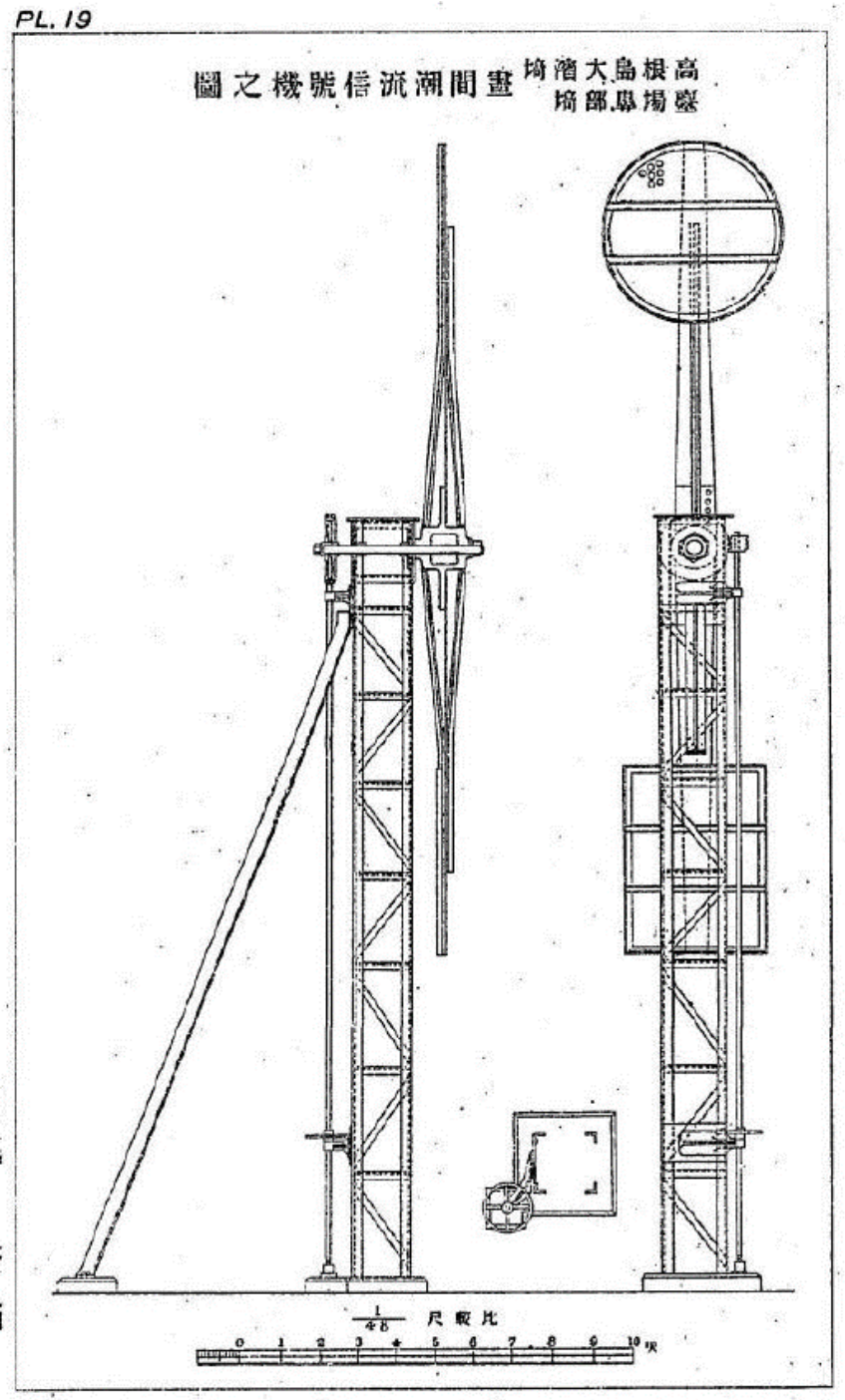
信号の種類	西行船に際して	東行船に際して
第一種	高根島，小佐木島間において東方に航行する船あり	外掲埼以東において西方に航行する船あり
第二種	小佐木島，細島間において東方に航行する船あり	外掲埼以西において西方に航行する船あり
第三種	高根島，大久野島間に帆船群走す	細島，高根島間に帆船群走す

画像提供 郵政博物館

昼間潮流信号機

昼間潮流信号機は、主柱は鉄造で、控柱とともにコンクリート基礎に建てられている。布刈瀬戸の潮流の方向を示すために設置された。腕木の両端に黒色長方形板と紅色円形板が取り付けられており、板の位置と腕木の角度により、潮流の方向と速さの変化を船舶に知らせていた。







検潮器浪除塔

検潮器浪除塔は海中より立ち上がる基礎部分が八角筒形のコンクリート造で、上部に円形の鉄造機械室を設置する。使用当時は機械室の中央に検潮器が据え付けられていた。陸上との往来には桟橋が設けられ、機械室への昇降用に鉄製のはしごを設置している。



海陸道順達日記より

門屋浜の丁、灰屋次郎右座衛門方へおち着申候。尾道も、家居大ニして宜敷土地也。家数凡四千計有レ之よし。

爰ニ千光寺といふ寺あり。此寺へ立寄り拝見すれハ、座敷抔見事にしてよきかゝり也。数物も見事く。壺のかまへも



▲爽籟軒茶室



▲掲翠園跡出土茶器



▲加島園全景図（尾道市立美術館 所蔵）



▲明喜庵茶会記（橋本家文書　広島県立文書館 所蔵）

おのみち歴史博物館企画展

「近世尾道の茶園文化 ～北前船船主が見た尾道の栄華～」

江戸時代、港町尾道は、北前船等多くの廻船の寄港により、飛躍的に発展しました。多くの豪商が生まれ、豪商達は町周辺に茶園と呼ばれる別業（別荘）を築きます。文化10年（1813）佐渡国沢根の北前船船主の笹井秀山は、各地を訪れた紀行文『海陸道順達日記』を表しており、その中で、繁栄する港町尾道の茶園にも立ち寄っています。近世尾道の茶園は、遠隔地からの来訪者や文人が集う文化交流の場でもあったのです。

本展では、近世尾道の茶園文化を物語る茶園出土資料や茶園文化関連資料などから、近世尾道の文化交流のストーリーを紐解きます。

【展示内容（予定）】

北前船船主が見た近世尾道の茶園

1　爽籟軒庭園
- 爽籟軒庭園[久保茶園]古図（県立文書館）
- 橋本家文書[久保茶園]購入文書（県立文書館）
- 安政六年妙喜庵茶会記（県立文書館）

2　海物園
- 海物園掘毫書
- 主屋棟瓦

3　浄土寺庭園
- 茶会記（県立文書館）

その他の茶園
- 加島記・加島絵図（市立美術館）
- 掲翠園発掘調査資料（前茶器）
- 御屋敷毎日献立（県立文書館）

爽籟軒庭園【尾道市名勝】

└爽籟軒茶室【尾道市重要文化財】



爽籟軒は江戸時代の豪商橋本家の別荘で、趣向を凝らした庭園や茶室は、当時の豪商や尾道の繁栄の歴史を物語る文化遺産。

とりわけ爽籟軒茶室「明喜庵」は、京都山崎にある国宝「妙喜庵待庵」の写しで、日本に数例しかなく、歴史的資料としても貴重な文化財です。

【開園日】土曜・日曜・祝日・1月2日～3日　※荒天時は臨時休園
【時　間】4月～10月（10時～17時）／11月～3月（10時～16時）
【入園料】一般100円　※中学生以下無料　※障がい者手帳など可



【お問い合わせ】
尾道市文化振興課文化財係（広島県尾道市久保1丁目15-1）
TEL（0848）20－7425



おのみち歴史博物館企画展

SAEN

近世尾道の茶園文化

北前船船主が見た尾道の栄華

日本遺産

KITAMAE-BUNE

令和8年（2026）

10/7（水）～11/23（月・祝）



おのみち歴史博物館　火曜休館

10：00～18：00（入館17：30まで）
〒722-0045 広島県尾道市久保1丁目14-1

詳しくはこちら→
（日本遺産尾道市公式サイト）

入館料　一般210円
共通520円（おのみち映画資料館も観覧できます）
※中学生以下無料
※障害者手帳（ミライロIDも可）を提示時、ご本人様と介護人1名は無料

【主　催】
尾道市
尾道市歴史文化まちづくり推進協議会
北前船日本遺産推進協議会尾道事務局

【お問い合わせ】尾道市文化振興課文化財係（〒722-8501 広島県尾道市久保1丁目15-1）　TEL（0848）20-7425